



千葉大学医学部同窓会報 第138号

題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るのほな同窓会長)

編集発行者 千葉大学医学部 るのほな同窓会報編集部 〒260-8670 千葉市中央区交鼻1-8-1 千葉大学医学部内 るのほな同窓会 電話 (043) 202-3750 FAX (043) 202-3753 e-mail : idoso2@med.m.chiba-u.ac.jp HP : http://www.inohana.jp/

新春によせて

るのほな同窓会会長

渡辺 武



明けましておめでとうございます。

日頃同窓会事業にはいろいろとご理解、ご協力を賜り感謝しております。

今年はどうのような年になるのでしょうか。一国主義と民族紛争、テロの激化から世界紛争とならぬよう人間の知恵?を期待したいものです。目先の見えない世界恐慌と異様な人間模様、迷路のような三位一体の旗振りのおかげでの改革音頭。明るい展望は拓けません。

医療特区構想からの混合診療、世界に誇る国民皆保険制度の崩壊への兆し、グローバル化の進展の裏面、場となる医療界を迎えて、さてどうするかです。同窓会の出番です。今こそ情報収集とお互いの団結が肝要です。基盤となる日頃の親睦を如何にして構築するか同窓会にとって極めて大

きな課題となってきました。さてご存知の通り、千葉大学は、国立大学法人千葉大学としてスタートしました。これまでのような国の行政組織の一部ではなく、自己責任でまず中期目標のもとに大学改革を行い、第3者評価のもとに教育・研究の推進をはかることになりました。卒業臨床教育制度の改革も同時にスタートしました。

ちなみに千葉大学は、9学部(文学部・教育学部・法経学部・理学部・医学部・薬学部・看護学部・工学部・園芸学部)、1万人を超す学生数から成り、その同窓生は13万人ともいわれています。そして校友会を組織して千葉大学および各学部同窓会の発展に寄与し、会員相互の親睦・情報交換をはかることを目的とした会則が平成14年3月に制定されました。

近くを数えます。また開学130周年を迎え、記念講堂、同窓会館への対応をはじめとして一方では将来検討委員会からの検討事項(継承事業・財務などの開業支援からの各種の福利事業、情報発信事業、医療事故などのリスクマネジメントなど)に加えて従来の各種委員会の在り方の検討など問題山積してありますが、特に会員相互の連携・親睦の強化を目標としております。これまで2回の首都圏るのほな会を開催し、同窓会の活性化に向けて活発な意見交換をいたしました。これをさらに発展的解消して全国支部長会議を目標に本年2月12日、現在ある九州・沖縄・四国支部など15支部長の会議を計画しております。

各支部の情報を得るためには、会報の充実が欠かせません。支部連絡員をはじめとして各種委員会への積極的な参加を望んでいます。また総会には資格を問わずに直接の参加も期待いたします。公家もどきでは進歩がありません。ホームページへも多くのご意見をいただければ幸いです。終わりにのぞみ各位のご健康を祈っております。

千葉大学次期学長に古在前園芸学部長

次期千葉大学長に前園芸学部長の古在前樹教授(61)が選出された。任期は平成17年4月1日から3年間。

全国支部会大卒 日時 17年2月12日(土) 午後4時~6時 懇親会 午後6時~8時 場所 東京ステーション ホテル・松の間 (TEL:03-3231-3511) 会費 一万円 (旅費は補助いたしますので、詳細につきましては同窓会事務担当清水までご連絡下さい。) 議題は以下のとおりです。また、運営を円滑にするた

め、議題へのご意見(メモ程度でも)を事務局へご連絡いただけましたら幸いです。 TEL:043-20213750 FAX:043120213753 Email:idoso2@med.m.chiba-u.ac.jp (1) 支部活動報告:日頃の活動状況。会報、総会・役員会・懇親会など。また要望事項や具体的な提案。 (2) 支部のないところへの対応:促進にむけて(北海道・東北・大阪など関西)支部開設への意見。支部名称に ついて。 (3) 役員・編集委員などの推薦 (4) その他 なお、支部の結成されていない地域の会員で活性化などご意見のある方はお寄せください。 また、支部結成を準備されている方の積極的参加をお願いします。

最終講義のご案内

Table with 2 columns: Topic (e.g., 神経統御学, 山浦 晶 教授) and Date/Time (e.g., 平成17年2月16日(水) 午後2時30分). Includes a '紙面紹介' section listing various articles and their page numbers.

# 新年のあいさつ

例年掲載しております年頭の挨拶について、今回は、理事、評議員の諸先生方より原稿を募りました。「寄稿いただきました全ての挨拶文を掲載します。」

## あのはな同窓会と私

水間正冬 (昭17)



私があのはな同窓会の理事になったのは、かなり前のことではっきり覚えておりません。

私の同級生に内田成和という非常に真面目で几帳面な男がいて、同窓会の常任理事や監事として同窓会の為に大変尽力されておりました。この内田君が常任理事として活躍されていた頃に私も理事になったのではないかと思っております。残念なことには内田君は平成10年7月9日に悪性リンパ腫で亡くなりました。私は内田君のように熱心の役員会などには全く出席したことはありませんが、

四金会には藍綬褒章受賞と叙勲の際に御招待を受け、二度出席しました。

千葉で開催された総会には出席したことがありませんが、東京で開催された総会には都合がつく限り出席して参りました。いつも大当局的の新しい情報が伝えられて大変参考になりましたし、また旧知の懐かしい先生方に久しぶりにお会いして、楽しい歓談のひとときを過ごすことができました。これからも東京での総会には出席したいと思っております。

あのはな同窓会埼玉支部では、毎年8月に総会を開催し、大学から教授をお招きして大学の最新情報や最新医療などについて講演して頂き、大変好評を博しております、いつも盛会です。私も平成6年から6年間支部長を務めました。現在は井上幸万君 (昭27) が支部長として尽力されており、会員は若い人達が増えて来て30余名になっております。

昭和17年9月卒業の私たちのクラスは、内田君の発案で「白兔会」と命名し、戦後懇親会旅行、クラス誌発行、慶弔などの行事を行って参りましたが、みんな高齢になったので平成9年4月20日に卒業55周年記念の総会を最後にすべての行事を打ち切りました。

この間、内田君と私が長い間幹事をつとめて参りました。その後は有志のみによる懇親会を故人の奥様方も交えて少人数ながら年2回開催しております。私は自宅は東京ですが、昭和31年4月以来幸手総合病院の院長を26年間務めたあと、春日部市の梅原病院に勤務しておりますので、既に48年間もの間、埼玉県内で医療に従事していることになりました。過日満88歳になりましたが、働けるうちは今後も働きつづけてゆきたいと思っております。

私は短現で陸軍軍医学校に行つた。が、軍批判で重営倉入りをした罪で、直ちに第一線工兵、玉砕部隊軍医長を命ぜられ、同級では一番非道い目に会つたが、程なく終戦で救われた。復員後は焼野ヶ原になった千大グラウンドに残つた薬理の図書室で自炊し、復興に努め、空襲の燈火管制なき図書室で万巻の書が読め



## 年頭所感

川島恂二 (昭20)



私の学年までは、医師国試がなくて、各教授独自の所信の名講義をたっぷりと教われた。

医学の赤松教授、病理の石橋教授らの基礎医学、内科の堂野前教授、外科の瀬尾教授等の臨床医学等、どの科からも名講義を頂き、今考えても何教授から何を教わつたと覚えてる。幸せな学生生活であった。

然し卒後は陸軍か海軍かの入隊が待っていたのは、お国の為とはいいいながら、辛かった。

私は短現で陸軍軍医学校に行つた。が、軍批判で重営倉入りをした罪で、直ちに第一線工兵、玉砕部隊軍医長を命ぜられ、同級では一番非道い目に会つたが、程なく終戦で救われた。復員後は焼野ヶ原になった千大グラウンドに残つた薬理の図書室で自炊し、復興に努め、空襲の燈火管制なき図書室で万巻の書が読め

て幸福一杯だった(薬専、医専と学部講師)。

薬理のお陰で父の眼科を継ぐと、開業医は超々の猛多忙だったが、眼科昆虫医学樹立を目指した。アオバアリガタハネカクシ毒の化学構造を追究して北大、阪大、九大と提携して遂に立体構造まで掴んで、伊国研究に勝つた。ヤマカガシ蛇の有毒を掴んだ私は、京大、医大と提携して、毒の化学構造も掴めた。その他、蜘蛛糸の毒等十種類程が判つた。

傍ら郷里の蘭学史、蘭医史学を究め、特に日本解剖学史に多数の新発見の貢献が出来た。それで昭和57年度の日本医師会の最高学術優功賞を全国5名中の首席で頂けた。

開業医は夜も救急車で起こされ、保険請求、医師会役員等雑務が山積みの上、私は県の眼科医会代議員や、会長やらで死にそうだった。でも戦死をした私の多数の尊敬する仲間を思えば、夜も電気を点けて本が読める時代に生きられる有難さから、何クソツと頑張れた。

幸い72才で息子と交代して、以後は書きたかつた事柄を5冊の本に著述刊行をした。西の今年は86才になるか

## 第6回のあのはな同窓会学外研究助成決定

2004年度あのはな同窓会学外研究助成は次の3名に決定しました。

大賀 優

(千葉県千葉リハビリテーションセンター、神経リハビリテーション、昭62) 「脳虚血損傷に対する遺伝子/細胞療法を併用したEnriched rehabilitative training」

ら死んでよい。

私は旧制高校理乙でも、千葉医大でも、今も尊敬している多くの教授を得て幸せだった。

後輩に告ぐ!!

学生時代の講義は、必ず生涯の血と肉になる。今年からは絶対にサボるな。

## 2004年を振り返って

沖 真澄 (昭22)



先ず昨年は台風、地震を始めとして殆ど全国的に被害を受けたが、特に中越地方にもたらされた災害はまことに気の毒で、同情に堪えない。

神崎哲人

(国立精神・神経センター国府台病院、内科、昭55)

「糖尿病に合併する動脈硬化症の血管壁マトリックス代謝変動の及ぼす一酸化窒素の役割の解明」—TCF- $\beta$ 代謝との関連—」

佐藤恒信

(君津中央病院、消化器内科、昭63) 「肝腫瘍における造影三次元超音波の診断能の病理組織との対比にもとづく検討」

害を受けたが、特に中越地方にもたらされた災害はまことに気の毒で、同情に堪えない。

これ等の地方の人の悲しみと苦しみは大変なものであったと深く同情に堪えない。

ひるがえって政治の面では、小泉内閣の再選が決まって再び内閣を組織したが、世相は益々暗くなる一方で、アメリカにはいい様に振り廻され、また北朝鮮にはすっかり舐められ、万景峰号が新潟に來る度に米はゴッソリもってゆかれ、その上何十億ドルという金ももってゆかれ、すっかり舐められてきている。この先どうなる事やら心配でならない。ところで、数年前から時々

話題とされていた国立大学の「独立法人」化がよいよ本物となり、この4月から実施に入った。

最初の頃はどのようなやらなにがなんだかさっぱり分からないで、鳩が豆鉄砲をくらったような状態の人が多く、今更同窓会というものにもあまり関心がない人が多いのには驚き、且つ呆れた。国立大学が法人化されて、どの様な事が問題になるのか全く分かつたという人が多いいのにはいささかびびりした次第である。然し乍ら「大学医学部附属病院案内」を手にする様になつたら少しずつ理解できるようなつたと思えて、大学の運営はどうなるのだろうか、懸念する会員が次第に増えてきたことは進歩とみてよいと思う。即ち危機感を少しずつ感じ始めてきた様に思う。出来ればもう一歩すすんで、もし大学の経営に問題が生じた場合我々同窓生としてはどうあるべきか等少しずつ真剣さをみせて来た。一歩前進したと考えられる。

### ケセラセラ

山崎義人(専25)



昨年は超異常の猛暑に続き、連続大型台風の襲来、更に新潟中越大地震と、また11月29日には北海道釧路方面に震度5の地震が発生、その他甲信地方、千葉、茨城、小笠原諸島、他各県にも小さな地震が毎日の様にラジオ・テレビで報じられており、正に日本列島はひどい天罰?にさらされている感がある。戦後焼野原から立ち上がり、死に物狂いで努力し働いて世界第2の経済大国にのし上がった事は働きの日本人の努力の賜物であった。ところが、経済が余りにも発達し生活が豊かになると、一番大切な心にクサレが生じて、本来の日本人の美徳が失われ、欧米、その他の国の悪い面ばかりを真似て数年前には到底考えられなかった色々な事件が次から次へと起こり、とりわけ凶悪犯罪、その犯罪を犯す年齢も段々と低年齢化していくことには、

日本はこれからどうなるのかといささか危惧の念を抱くのは私ばかりではあるまい。ソビエト連邦崩壊以来、世界情勢が全くガラリと変わってしまい、今や変遷目まぐるしい世界の状況には目を見はるばかりである。この様な世の中を生きてゆくには、歌の文句でもあるまいが所謂「ケセラセラ」の気持を強くもって、強く生きていく事がストレスを溜めないで元気に毎日を送る事ができるのではないかとつくづく思う昨今である。「元気が一番。人生只今からをモットーに」。

夫々に支部長を配し活動して頂く事にしたが、決して各支部の活動は活発とはいえない状況である。平成9年に伊東和人先生の後任として常任理事を拝命したが、当時は殆ど学内理事の先生方の立案によって常任理事会の議事が進行し、我々学外の理事は殆ど発言の余地が無かつたように記憶している。平成14年、渡辺会長の後任として私が千葉県の同窓会会長をお引き受けることとなり、各支部の活動を「あのはな同窓会」の事業に反映できるよう努力したが、力不足で申し訳なく思っている。

「あのはな同窓会」会長に就任され、会則の改定により総務会が発足し、今後母校を支援する様々な事業が展開されることとなる。尚、学生会員が入会することについても同窓会として支援が必要となる。同窓会は親睦団体であると同時に、母校である大学の発展を望んでいる。ましてや法人化として民間企業と同じ経営努力が求められている。医学部および附属病院は、今や危機存亡の時期にきている。単なる親睦会ではなく、同窓会としての独自の

事業を立ち上げて支援すべきではなからうか。「あのはな同窓会」は都道府県に支部があり、夫々の代表が全体を統轄する組織を作ればよいと思う。基

### 同窓会の歩む道

大浜博利(昭27)



千葉県のあのはな会は、初代会長の渡辺武先生ほか諸先輩の並々ならぬご尽力により平成8年4月に発足したが、地元であるということもあり会員数約200名という他県支部とは比較にならないほどの大世帯であり、10ブロックの支部に分割し

創世記の冒頭には「始めに神が天地を創造された」に始まり「神は御自分の像の通りに創造された」に終わる大仕事を神が6日間で完遂されたこと記されており、人々の中にはそう思っています。その人達に別段文句を言うつもりはありません。このお話も、人間の存在と

存続の上にはそれなりの効用はあるものと思います。私はこのお話を勿論信じません。私もある教えの呪縛の中にいる一信者です。自分をサイエンス教徒だと思っており、サイエンス教徒はかなり昔からいたようですが、近頃やたらと増えてきて、また信仰の度合いもいろいろです。百年ほど前に「神は阿片の売人だ」などと叫んだ人もいました。私の場合は神より佛さまですが、大変親しみをもちております。でも地獄も浄土も信じていません。

繰り返しになりますが、地球上に文明というものが生まれる前に「カミはヒトにより創られた」と思っています。それから何万年か経って「神は人間によって創られた」のだと信じております。この神はやがて文字記録に現れてくる神です。勿論この神を佛と読みかえても間違いではありません。どのようにして創られたか想像してみました。例え

ばです、幼児がまつわりつきながら歩いていました。ふと幼児が転んで膝を擦り剥いて大声で泣き出した。母親は幼児を抱き上げて何事か言いながら幼児の膝をなでた。しばらくすると幼児は泣くのを止めた。こんな具合に幼児は痛いときには母親にすがりつきませんが、成人達が痛い、ひもじい、恐ろしい時には誰にすがりつくのか。勿論この時代には神はまだいません。でも何かにすがると助けを求めます。日輪か、山頂か、巨大な老樹か、吼え飛沫く落瀑か、または大鳥か、白狐か、などなどに呼びかける、助けを求める。これらの象徴に何かたまたま異力、霊力を感じ取るからなのでしょう。山頂の巨石を一心に念じて霊籠を得たときは、そのことを仲間話したに違いありません。やがてあの山頂にはカミがいると仲間も思いました。カミが現れてから数万年(?)後地球上のいろいろな場所で、人間の天才達が神さま、佛さまとお話を創って人々に紹介しました。



### カミづくり

小沢昭司(昭27)



年頭の挨拶をと編集子よりお便りがありました。ご挨拶というのは苦手なので、もし許されれば年頭に因んで、正月「初詣 神様と滑ってきて、その神(佛)さまについて近頃の心境をお話してみたいと思います。結論は「神は人により創られた」です。

本は地域の組織の会で親睦、相互扶助、勉強会などの活動をするものであり、各県支部の組織の強化が必要である。

年頭にあって

熊合信夫 (昭28)



るのはな同窓会の皆さん、明けましておめでとうございませう！謹んで新春のお慶びを申しあげ、今後ともよろしくお願いいたします。

さて、大学の法人化が実施されてから早くも1年になり、この間に大学の運営体制の変革・新研修医制度の導入などに伴って、研究・教育・診療体制の発展的組み替えが行われ、大学も一新されつつあります。このことよって一時を過ぎた「るのはな台」に対する熱い思いが希釈されて、同窓会離れが加速され、将来が危惧されている現状であり、会員相互の、また母校との絆を強めて、同窓会の体質強化を図ろうという動きが起るのには当然である。

として複数の人の先生方を招待しての総会が、昨年までに9回が開催されている。一方、会員の高齢化が進む中で、若い会員の入会は少なくなり、会員数は20年で103名から現在77名へと減少した。

また会員は広い県下の各地域に散在しているので、総会といっても参加者は限定されて20余名である。3年毎の名簿はワープロによる手作りとしても、年会費2,000円では通信連絡費・総会費用と物故会員の香料で手いっぱいである。今時2,000円の会費ではという向きもあるが、本部の年会費の上に、メリットは多くない支部の会費増額も忍びない中で、この中でなんとかしてもっと多くの会員に、顔をむけてもらう方法はないかと悩みは尽きない。これが千葉から遠隔地にある弱小支部の実態である。

「支部の隆盛は本部(全体)を活性化し、それがまた支部の発展へと還元されるのが本来の姿である。」これが過日の首都圏るのはな会の大方のコンセンサスであり、さらに付け加えるならば、本来は従来手薄であった支部の育成にもっと努力すべきであると考え、るのはな同窓会の経(たて

いと)は医学であり、多くの会員の関心は医学中心と考えるので、この際同窓会(本部)が事業として予算

を組み、定期的に医学講演会と同窓会PRの全国支部行脚を実施して、支部の体力増強を通じて本部(全体)の活性化を図って欲しいというのが、年頭の思いであり、一支部の提案でもある。るのはな同窓会の興隆と、会員諸兄弟のご健康・ご活躍を祈ります。

新春を迎えて

藤山嘉信 (昭30)



新春のお慶びを申し上げます。昨年、世界も日本も暗いニュースが続きました。今年はどうなるのでしょうか。

私にとっては大学卒業後五十年の節目の年になります。1955年卒に因んで、「五五会」と称する私達のクラス会は、千葉・東京地区と地方とが交代で開催しています。今年には更に大きな節目の年と

して記念誌の発行も予定され、編集の準備が進んでいるところとす。

三十周年の時も記念誌を出しましたが、当時の物故者は10名でした。その後更に二十年が経って、30名を越してしまいました。今更ながら半世紀の年月の長さ

と重みを感じます。私達は、旧制千葉医科大学から新制千葉大学医学部

に変わった第1回生です。戦後6年経ち、食糧難がそろそろ収まってきた頃に入

年頭の御挨拶

村瀬 靖 (昭30)



新年おめでとうございませう。今年、大いに羽搏く年です。若い若いと思

っていた我々30年卒も、卒業50年の節目を迎え、同窓会費も規約で免除になる。そう

久しく云われております。こうした時代にあつてこそ、

国や海外のるのはな同窓会

員を連携させる唯一とも言

れると喜ばしいですが、他の国立大と比べると採択頻

野明彦教授は寄生虫学で、

白澤浩教授は分子ウイルス学で名高いです。本学も

たり本学の限りなき発展を祈ります。

「小児呼吸器感染症診療ガイドライン」とともに

上原すゞ子 (昭31)



2004年12月9日、私は日米医学協力計画40周年記念国際会議(京都国際会議場)での「Guidelines for the Management of Respiratory Infectious Diseases in Children in Japan」の講演を終えて、胸をなでおろした。実はこの小児呼吸器感染症診療ガイドライン(上原すゞ子・砂川慶介監修・日本小児呼吸器疾患学会・日本小児感染症学会ガイドライン委員会作成、協和企画発行、口絵を含め101ページ)は11月11日に昼夜兼行で発刊されたばかり、この会のために目次と理念、図表だけ急ぎ英訳し供覧したので、文案もできないまま薄水を踏む思いで登壇したのであった。終って米国側の急性呼吸器感染症(ARI) 部長 Dr. Couch

らの質問を受けたが、彼らは小児で初めてのガイドラインに強い関心を示し、出来たての日本語版を是非欲しいと持ち帰った。同時に私に、英語のスライド全部の送付を託されたのである。

ここで、このガイドラインに私が特別の思いをかけている経緯を述べたい。欧米での成人市中肺炎のガイドラインは、1991年以来相次いで公表され、わが国では日本呼吸器学会(委員長:松島敏春川崎医大教授)から「成人市中肺炎」2000年、「成人院内肺炎」2002年、「成人気道感染症」2003年に診療ガイドラインが精力的に作成された。しかし、国際的に見てもこの種のガイドラインは小児では未だない。私は当初小児に要請があれば日本小児呼吸器疾患学会が受け皿になるだろうと考えて、運営委員会に諮り、2002年春、第1回小児肺炎診療ガイドライン委員会が開催された。上原すゞ子(委員長)、江口博之、岡田賢司、黒崎知道(昭51、千葉市立海浜病院)、春田恒和、山崎勉(昭57、埼玉医大)の6委員(うち小児感染症学会にも所属5名)で出発した。この時、小児肺炎ガイドラインは感冒の治療か

らという意見が出て、「小児呼吸器感染症診療ガイドライン」に改称された。そして、日本小児感染症学会からの委員(尾内一信、砂川慶介、満田年弘)も加えて、計9名で検討してきた。目的は小児急性呼吸器感染症における抗菌薬の適正使用であり、エビデンスに基づくべきである。ところで気管支、肺炎の原因菌診断は最も難しい。肺炎では、血液、胸水、肺組織に加えて髄液を伴わない肺炎については、成人同様に気道分泌物を含む喀痰の利用が望ましい。しかし、小児では喀痰は採取できない、喀痰には上気道細菌叢の汚染があるから無意味だと世界的に信じられてきた。上気道ぬぐい液で代用されている。

千葉大学小児科では、久保政次教授のもとに小児の喀痰採取の徹底、細胞診による気道分泌物の証明に加えて、細菌学的研究が求められた。私は1964年夏に、国立東京第一病院インターン時代に指導を受けた小酒井望順大教授に師事して、秋には小児科教室の一隅で細菌培養を開始した。中央検査部開設2年前である。Brucnerの洗浄喀痰培養法を導入して、上気道細菌叢

を可及的に排除し、半定量的解釈を加えることにより、インフルエンザ菌などの原因菌を純培養状態に証明できた感激は忘れられない。以来40年を経た今日、世界初の小児肺炎を主とした呼吸器感染症診療ガイドラインにこれが反映された意義は格別である。そこには千葉大学小児科で労苦を重ねられた歴代感染班長、班員の皆様、細々となった時期でも支持された方々、関連施設特に千葉市立海浜病院、青葉病院、千葉県こども病

新年おめでとうございます

北川定謙 (昭31)



新年のごあいさつを申し上げる機会をいただき、心から感謝申し上げます。私も、卒業大学を離れ、医学部卒業生としては、少し外れたと思われる行政の道に入って、多くの経験をさせていただきました。社会は、大きな総合戦略の時代になっていますところから、千葉大学医学部として

院、最近では埼玉医大小児科でも喀痰採取・培養(簡便法)を原則としている。こうして得られた成績をもとに、世界に類まれな気管支肺炎の原因菌に根ざしたガイドラインとして、今後の prospective, retrospective study が期待されている。「継続は力なり」の諺そのものであろう。今後、わが国をはじめ世界に普及することを願って止まない。皆様の協力添えに深謝申し上げます。

も、多様な分野へ人材が広がって行くことをぜひ進めていただくとを願って筆をとることいたしました。旧年、四金会場で在学生の何人かの人たちとお会いをする機会があり、情報の交換、意見交換をいたしました。その時のやりとりが、学生自治会による亥鼻祭のための Inubana 2004 2005に掲載され、面はゆい思いをしないでもありませんが、少しでも多くの学生諸兄姉に学外の世界を知ってもらおう上で、一つの材料になるのではないかと思うものです。医学部を卒業すれば、大部分の方は臨床や研究に進まれるのは当然ですが、日

年頭挨拶

三枝一雄 (昭32)



明けましておめでとうございます。本会について年頭に私の考えを申し上げます。今年を渡辺武会長を中心に2月に全国支部長会議を開いて抜本的

本の、あるいは世界の人々の健康問題について組織的な体系をつくる上で、行政という分野があるということを知っていただければと思うものです。厚生労働省には、現在、千葉大医学部卒業生は、昭和57年卒の矢島鉄也氏をはじめとして、何人かの人たちが頑張っております。しかし、全体の約300人にのぼる医系技官の中では、少数派になっているのではないかと思います。

この機会に、千葉大学発展の一翼を支えるという意味で、もう少し何人かの新人がこの分野にも関心をもっていただけであることを願う次第です。この機会に、千葉大学発展の一翼を支えるという意味で、もう少し何人かの新人がこの分野にも関心をもっていただけであることを願う次第です。この機会に、千葉大学発展の一翼を支えるという意味で、もう少し何人かの新人がこの分野にも関心をもっていただけであることを願う次第です。この機会に、千葉大学発展の一翼を支えるという意味で、もう少し何人かの新人がこの分野にも関心をもっていただけであることを願う次第です。

クラブ活動の付き合いも大切。私は学生時代、卓球部とやほぎ会に属していましたが、半世紀経った今でもその交流は続いています。特に卓球部の学生は今も毎年、夏休みに我が家で一泊、バーベキューに来てくれますが、酒を酌み交わして卓球を語れば年代の差を感じさせない楽しみがあります。富田副会長は卓球部創設期の主将であり当時の医学部では関東に及ぶものがない腕前でした。また遊びの天才でガキ大将でした。勝山寮の合宿で遊び

**新春雑感**

大井利夫 (昭35)



明けましておめでとうございます。新春にあたり、日頃から「あのはな同窓会」について感じていることを記させていただきます。

昨年、千葉大学も法人化し、大きく組織改革が行われたと聞いています。詳細は分かりませんが、外から見る限りでは、さほど大き

くって寮委員の懇話を買っうほどでしたが、まとまってよく練習し、後に関東医大リーグを連覇する基礎を作りました。今も卓球部は富田先生をOB会長に戴いて団結を誇っています。その手腕を発揮して「あのはな会」改革を期待してはいますが、昔と変わらぬ過激な発言が誤解を招かないように願っています。まず親睦から広く全国に、老若各世代に呼びかけて楽しい組織づくりをしようではありませんか。

な変化があるように見えてきません。大学は大学であり、医局は医局のように見えます。とは言え、今回はそのことを論じる心算はありませんし、中では、大変に苦闘しているのかも知れませんので、何も知らない外野から勝手な意見を口挟むことは避けるべきでありましょう。

しかし、「あのはな同窓会」に関しては、常任理事に会を席を連ねる者として意見を具申しても許されるのではないのでしょうか。あるいは「新春放談」として読み飛ばしていただいても結構です。

昨年9月18日、富田裕神

奈川県のあのはな同窓会会長の企画により横浜で開催された「首都圏のあのはな会」の時にも述べさせていたいただきましたが、問題は組織としての「あのはな同窓会」のあり方であり、確かに、今日の同窓会が存在し得るのは多くの先輩方の営々たる努力のお蔭であり、設立時やその後の苦渋に満ちた事柄を聞くにつけ、先人達のご努力については、感謝の念を決して忘れることは出来ません。しかし大学自体が独法化し改変の道を歩んでいる現在、同窓会も変容し、同窓会本来の水平組織に大きく変革すべきではないのでしょうか。

同窓会においては、会員一人ひとりが同等の権利を有し、個々の会員が何らかの形で権利を遂行できるように工夫すべきでありましょ

う。具体的には、執行部役員の選出方法と議決権が問題になります。さらに組織としての「機能体」業務と「共同体」業務の振り分け、比重配分も重要であります。収益事業も視野に入れる必要があるかも知れません。

そのためには、基本的な規約の整備が必要です。支部構成も論議しなければなりません。本部があっ支部分なのか、支部の連合

で本部が形成されるのか。考え方一つで大きく異なることが、予想されます。そして何よりも、該当者が全員進んで入会し、積極的に参加を希望するような組織形態のあり方を探らなければならぬはず。それが満たされたときに、初めて「あのはな同窓会」の飛躍的発展が約束されるように思えてなりません。

**素敵なるのはな会に**

佐藤 通 (昭35)



あけましておめでとうございます。

さて、「同窓会とはなんだ。何をするといいか。」などの論議が頻々となされました。

確かにあのはな同窓会は今までは、会則に謳っている如く、情報交換をしながら親睦を深めてきたかと云えば、特に全国的にもサツパリだったと思います。今、社会の変遷が甚だしいので、これでよいのかで議論になったでしょう。

例えば、この4月から母校は独立法人化されました。文科省のお題目は立派です。これで母校もうまく立ちゆくのかと思いきや、何の事は無い、文科省官僚の大学役員会への天下り先の確保だったり、厚労省の事業達成度評価や予算を把握する官僚支配の強化だったのです。

母校が無くなってしまったのでは大変ですから、この際同窓会は、一致団結して行動しようとするのは当然です。

母校が安泰であるのはもとより、同窓会員が和気藹々と交流出来るようにしたいものです。

大学に関係する役員立案した会則が、前回の総会で成立しました。その内容の良否を今云々するのは不

適当です。今はこの現存する会則に即した方法で将来を論じましょう。それには全国の同窓会全員に地域に合った支部を結成して貰うことです。その支部組織が集まって協議することです。

側の役員が、献身的に同窓会を支えてきた歴史的経過があります。日本は民法の条項にも存在する公序良俗を尊重します。好意で努力してきた仲間感謝しながら、今後の同窓会を構築していくのが今の我々には肝心と思われま。これを義理人情という人もいるかもしれませんが、思いやりともい

かもいれませ。私の恩師中山恒明先生は「無さざるは悪をなすより悪し」とよくおっしゃってました。時宜を得た素敵な同窓会にしたいものです。

**年頭の二挨拶**

落合武徳 (昭41)



度計画、予算、決算などが決定されることになりました。医学部附属病院では4月から診療科再編という名のもとに第一内科、第二内科、第一外科、第二外科のナンバー内科、ナンバー外科の名称がなくなり、臓器別の名称となりました。消化器外科については、第一外科が肝胆脾外科、第二外科が食道・胃腸外科となり、診療内容が名前を見てわかりやすくなったためでしょうか、患者数が増えているのは再編による良い効果です。また4月から卒後臨床研修必修化が始まり、従来の卒業してすぐ入局するシステムではなくりましたので、人員が不足し、関連病院への若手医師の派遣に苦労しています。

このように、今、大学は揺れています。このところの静かだった周囲の雰囲気は波のように揺れている感じ。しかし、慌てることはありません。大学がイギリスやイタリアで12世紀に発生し、社会の変動にもかかわらず今まで1000年近く存在し続けてきました。

激動の時代こそ、本来の目的と存在理由をしっかりとわきまえて日々の努力をし続けることが今後の千葉大

学の生き残りに必要と考えます。

### 年頭挨拶

小俣政男(昭45)



諸先生方には、ご無沙汰しております。平成4年4月に東京大学に赴任いたしました。13年目に入りました。その間、第一内科教授、そして臓器別に編成後は消化器内科教授を務めさせて頂いております。現在約80名の教室員と共に、消化器病領域の臨床・教育及び研究に携わってまいりました。当初の葛藤から、現在世界に出しても恥ずかしくないそれなりの科が出来上がったという、気持ちもあり、いわば苦業を共にした(している)教室の先生方に深く感謝いたしております。その中で感じました事は、やはり自身が受けた過去の教育が、教室の運営あるいは研究を遂行する上で如何に重要かという事です。私自身、千葉における約13年間と同時に、米国留学での

6年間の体験があります。米国留学はインターンとして28歳から34歳までと期間は短かったものの、この経験は強烈でした。年齢もそろそろ50代最後にさしかかろうとしておりますが、若い時代の経験が如何に大事なものをかをしみじみ感じます。殊に若い先生方におかれましては、この進行中の体験、或いは教育が将来の糧となりますので、おろそかにせず是非頑張ってください。

### 年頭の挨拶

徳久剛史(昭48)



千葉大学は平成16年度から法人化され、国立大学法人千葉大学として再出発しました。この法人化は、約50年前の敗戦による強制的なアメリカ流教育制度への改革とは異なり、多少とも安定した社会環境の下での改革です。従ってより良い方向への改革であって当然ですが、現実の大学における教育研究活動は、決して良い方向へ向かっていると

たいと存じます。東大は60歳が定年という事で本郷に参りましたが、任期の延長となりまして、まだしばらく東大におりますので、同窓の先生方に何かできる事がございましたらご遠慮なく申し付けて頂けたらと存じます。最後に、千葉大学医学部の発展を心底より祈念いたします。

量って教育研究をしたのでは、将来の発展はたかが知れているからです。大学がどれくらい多様性を維持できるかが、その大学の質だといっても過言ではないと思います。私の行っている基礎医学研究は、そのほとんどが失敗の連続です。でもその失敗のなから明日の成果が見えてくるのです。絶えず一定の業績を出さなければ評価されないような多様性のない大学になってしまったら、大発見をして医学の進歩に大きく寄与したいという基礎医学研究者の願いは、夢で終わります。

### 漢方医学の教育

秋葉哲生(昭50)



平成16年10月28日に、医学部の2・3年生(昔風に言えば医進2年生と学1か187名に「漢方医学は、いま、なぜ必要か」というタイトルで講義をした。この時間は生化学の時間なのだが、鈴木信夫教授の御配慮で小生にもお鉢が回ってきたのである。2週間もたないうちに、その場で出席票がわりに書かせたらしい学生の感想文のコピーを送って下さった。感想文は187人分あってこれがなかなか良く書けている。斜め読みして

いると、いくつかの項目についてはあちこちで同様な記述がみられて、ふとデータをとってみようと思いついた。簡単なデータベースソフトを作成して片端から入力してみた。感想文でもっとも多く出た。意外にも「歴史」であった。約6割の生徒が歴史の話が興味深かったと述べていた。なかでも、「千葉大学における漢方研究の歴史」については、「はじめて知った」、「日本の漢方研究の中心であった時期があると聞いて驚いた」という感想を少なからぬ生徒が寄せていた。わずかな経験にすぎないが、よその大学と同じような内容の講義をしたときにはないある種の熱気がたしかに感じられた。筆者が伝えたのは、そのような歴史的事実にすぎないので、「その熱気」は生徒自身とその伝統とながしが関わっている、あるいは関わりたい、という積極的参加意識に裏付けられた自覚のあらわれだろう。

### 脳神経外科の卒前・卒業教育

佐伯直勝(昭50)



平成17年の年頭にあたり、脳神経外科の学部および卒業教育に関して、意見を述べます。平成16年4月より卒業臨床研修が必修化されました。プライマリケアをきちんと行い、全人的に患者を診ることの出来る医師の養成を目指しています。先日、千葉大学附属病院からの推薦で、卒業臨床研修プログラム責任者養成コースに参加しました。卒業研修指定病院での研修プログラムの不備な点を修正し、改善するのがねらいです。参加者は市中病院からの医師が大半

を占め、プログラム責任者や指導医と現場での問題点を議論しました。印象に残るのは、研修医の勤務時間に関する事です。研修医は労働者であり、労働基準法にのっとった側面(一定以上の超過勤務はできない)と修練中の見習い医師の側面を持ち、両側面にどう折り合いを付けるかが問題提起されました。妥協点として週80時間以上は勤務させないと言う米国流の考え方が示されました。あらためて、新米医師の徹夜は仕方無しとする我々ベテラン医師が持っている常識はもう通用する時代ではないことを思い知らされ、ある種のショックを感じました。

脳神経外科は、2年目での選択科目ではありませんが、研修必須科目ではあります。千葉大学では現在まで、平成17年度の2年目に選択科目として脳神経外科を選んだ研修医はいないと聞いています。

現在、千葉大学の医学生は、脳神経外科の卒前教育として、系統講義(神経・精神ユニット)で7時限、ベッドサイドラーニングで1週間、クリニカルクラークシップで3週間前後(ごく少数の学生のみ選択)の指導を受けます。病棟では

医療スタッフの一員として積極的な参加をうたっていますが、種々の制約から、うたい文句からはほど遠いのが実状です。現在の医学部教育では、医師になって神経疾患のプライマリケアを任せられるレベルには達し得ないと思います。一例をあげると、脳血管疾患は、日本人の3大死亡原因の1つで、罹患率では増加傾向が最も著しい疾患です。プライマリケアの中で脳血管疾患は診断、治療、予防の面で大きなウエイトを占め、第一線での診断や治療は、脳神経外科医が行っています。

学生や研修医の教育を担う脳神経外科の教官として、次の4点を提案いたします。

(1) 医師を目指した以上、学生の皆さんにはクリニカルクラークシップで、研修医皆さんには選択科目の中で、脳神経外科をぜひ選択してください。

(2) 私たち千葉大学の脳神経外科医は、神経救急を扱う可能性の高い科目(神経内科、救急、外科)を選択した研修医が、意識障害や脳卒中患者をいかに扱うべきかを学べるよう、所属科と相談の上、積極的に皆さんの教育に参加・協力いたします。

(3) 脳神経外科が必須科目に見直しされるよう、文部科学省や厚生労働省への働きかけも重要です。

(4) 医学生に神経科学の魅力を感じさせ、研修医にプライマリケアのなかでの脳神経外科の役割の重要性を精一杯伝えていきます。

そういった地道な努力が、微力ではありますが、医療の質と安全の向上に結びつくと思っております。

現在、千葉大学脳神経外科として、脳神経外科専門医を目指した卒業3年目以降の専門研修プログラムを作成しています。脳神経外科という長い手術、救急患者のイメージがあると思えます。脳神経外科はそういった側面を持ちながらも、一方で診療内容は多様化しており、間口も広くなりつつあります。最近では、脳神経外科専門医資格を取得後、その経験をかき、リハビリテーションを専門としたり、一般の診療所を開業する仲間も増えていることは、それを示す良い例です。まさにつぶしがきく診療科の側面を有します。

一方で、専門性を追求し、全国でもトップレベルを誇る臨床研究が千葉大学と関連施設で行われています。血管内手術、頭蓋底手術、

神経内視鏡、脊髄・脊椎疾患、てんかん手術、定位的放射線治療(ガンマナイフ治療を含む)、パーキンソン氏病などに対する脳深部刺激治療、悪性脳腫瘍に対するテラライמיד化学療法、小児脳神経外科などです。脳神経外科学会専門医に加え、希望者には脳卒中学会専門医、血管内治療学会専門医、脊髄外科学会専門医など subspecialty の

神経内視鏡、脊髄・脊椎疾患、てんかん手術、定位的放射線治療(ガンマナイフ治療を含む)、パーキンソン氏病などに対する脳深部刺激治療、悪性脳腫瘍に対するテラライמיד化学療法、小児脳神経外科などです。脳神経外科学会専門医に加え、希望者には脳卒中学会専門医、血管内治療学会専門医、脊髄外科学会専門医など subspecialty の

資格も取得の機会が得られます。基礎研究室との連携も活発に行われており、学位の取得を大いに推奨しております。千葉大学脳神経外科は、専門医を目指す若い医師には優れた研修と実りある成果を提供いたします。

若い医師の皆さんと共に勉強出来ることを願っています。

導を受けられましたことは、私の最も感謝すべきことです。更に、スウェーデン国ウプサラ市ルードウィック癌研究所のヘルデン教授のもとで増殖因子のひとつである TGF- $\beta$  及びその結合蛋白の研究に従事させていただきました。スウェーデン留学は、新たな研究方法について学ぶとともに欧州における科学の伝統についても考えさせられました。さて昨年は国立大学、国立病院の独立行政法人化、医師の卒業臨床研修制度の開始など多くの改革が始まった年でもあります。私のような若輩にはこの改革がどのような結果をもたらすのか予想もつきませんが、願わくば日本の医学研究、科学の充実、医療の更なる向上

をもたらすことを期待しております。改革は制度も重要ですが、改革の実はそのを担う人に依存するのではないのでしょうか。私も非力ながら日本いや世界の医学、

医療のために力を注ぎたいと祈念しております。最後に皆様のご健康と一層のご発展をお祈り申し上げます。

### 全国支部会の開催について

るのほな同窓会会長 渡辺 武

日頃「るのほな同窓会」事業にご理解、ご協力いただき感謝申し上げます。御存知のように国立大学の独立行政法人化にもなつて母校は、国立大学法人千葉大学が正式名称となりました。学生数12,000名、9学部からなり各学部(文学部、教育学部、法経学部、理学部、医学部、薬学部、看護学部、工学部、園芸学部)とも、それぞれ独自の存在意義を強く求めて第三者評価に耐える事業展開をはかることとなりました。

同窓会の目的としては、言うまでもなく会則3条にあるように会員相互の親睦と母校の発展に寄与することであり、親睦のなかには激動する医療情勢を踏まえてお互いの情報交換はもとより相互扶助をはじめ各種支援事業の展開、また同窓会館や記念講堂の修復事業

への対応、さらには新しい卒業教育への視野も含まれます。

現在のるのほな同窓会会員は、学生会員を含めて全国で約8,000名となります。るのほな同窓会会報を通じて各地の同窓会支部報告がありますが、直接ナマの声、同窓会のありかたについては、これまで昨年、今年、首都圏のるのほな会の2回しかありませんでした。この度は同窓会活性化事業の一つと位置付けて全国的な声を求めるための全国支部会を別紙のように開催することとなりました。ご案内は現在ある15支部です(東京、千葉、神奈川、埼玉、茨木、群馬、栃木、山梨、信州、中京、四国、九州、沖縄、静岡、北陸)。各支部より2〜3名のご参加をお願いいたします。

### 年頭のご挨拶

神崎哲人(昭55)



明けましておめでとうございます。また、この度はるのほな同窓会学外研究助成をいただき、誠にありがとうございます。私は昭和55年に本学を卒業後、内科学第二講座(現細胞治療学講座)に入局いたしました。当時の熊谷朗教授、吉田尚前教授、齋藤康現教授など多くの優秀な先生方により動脈硬化学の基礎のみならず科学のあり方、その精神についてご指



# めのはな同窓会の会則改定(平成16年6月)をめぐって―母校と同窓会の連携を思う

めのはな同窓会副会長 大藤正雄(昭29)

長年、同窓会に関係してきたにもかかわらず、じっくりと会則に目を通すことはこれまでではなかった。ところが、母校が大学院大学さらにまた独立行政法人になるなどといった大きな制度改革の渦の中に置かれ、会員数およそ800名の大世帯となった同窓会にも、その余波が及ぶことは必定的な

ことがあられる。今、母校の独立行政法人化という大きな変革に合わせて、これらの支援事業はもう一度見直す時点にあるように思う。

余波が及ぶことは必定的なことがあられる。今、母校の独立行政法人化という大きな変革に合わせて、これらの支援事業はもう一度見直す時点にあるように思う。

同窓会の会則に目を通すと、千葉大学が発足した当初は医学部と薬学部が合同して

いたおかげで会則とのつきあいが始まった。

その後、度重なる改定があり、平成年代になってからも既に7回の改定が行われている。同窓会が如何に時代の流れに対応し、母校の動向に心配りをしてきたかという証を見る思いである。

最近の会長さん、名尾、加納、井出、長沢、現・渡辺会長といった方々が、母校との連携を緊密にしながら「同窓会の活性化」という命題をかかげて努力され現在に至っている。

今回、改定委員会のまとめ役を務めたことから、改定のポイントを簡単に紹介したい。

その活性化の一環として、支部の支援と合わせて母校支援事業がいろいろとすす

1、母校は医学教育の場であることから、学生の立場を重く見て学生会員(準会員)の項を設けた。

められてきた。めのはな同窓会報や名簿の発行にとどまらず、めのはな同窓会賞、学外研究助成、猪鼻奨学会助成、亥鼻分館整備助成、学生図書助成、施設整備助成、卒後研修助成、医学部と附属病院の渉外助成など

学内理事からの強い要請があった。ところで、金沢大学医学部十全同窓会では、すでに平成10年か

ら同じ項目を設けており、その先見性にいささか驚いている。

2、常任理事会の議決と意向に従って企画立案し、会務を総括する総務会を設けた。同窓会が大世帯となって会務を遅滞なく効率良く進めるには、どうしても必要な組織である。東北大、金沢大、新潟大などの国立大学の同窓会会則では何れも同様の組織が盛り込まれており、その必要性を理解することが出来る。

同窓会が大組織となり動きの速い社会状況の下で、長年にわたり慣習として続けてきたことが通用しない場面も見られるようになってきている。評議員会や理事会の役割がそれにあたる。これまでも度々指摘されてきた問題であり、急ぐよりはじっくりと検討し、次回の改定にゆだねることが適切と思う。

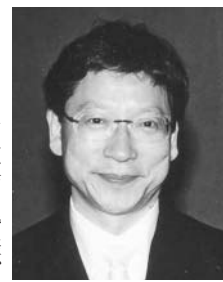
会則は時代と共に生きていく。それは同窓会活性化の証でもある。

母校と同窓会は大樹の根幹と枝葉、大河の源泉と流水の関係にあると思う。緊密な連携があって初めて互いの存在価値が高められるのではなからうか。

## 病院長就任挨拶

獨協医科大学病院

稲葉 憲之(昭47)



めのはな同窓会の皆様、益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。亥鼻を離れて丁度10年目になりましたが、

昨年4月に小職が大病院長に選出されました。厳しい医療情勢のなか、また変革の嵐の中の就任ですが、意外なことに日々楽しみながら安全且つ健全な病院経営に邁進しております。ご挨拶芳々、当病院の近況、特にトピックスをご紹介します。

先ず始めに副院長時代から懸案であった新棟(センター棟:C棟)の完成に触れたいと思います。昨年8月に新棟のお披露目を福田県知事、県選出衆参議員、県医師会長、自治医科大学病院長始め多数のご来賓をお迎えして賑々しく宇都宮グランドホテルにて挙行致しました。これに先立ち、

竣工祭、オープニングセレモニーを日光東照宮稲葉久雄宮司様の御司祭のもと恙なく済ませました。センター棟にはとちぎ子ども医療センター、臨床研修センター、救命救急医療センター(病室)、小児科・産婦人科外来、さらには機能を一新したレストランが設置され、既に活動を始めております。建設費用ととも医療センターの運営費の大部分が県財政より支出されております。記して謝意を表したいと思います。

さて、本年4月にはPET-CTセンターが開設の運びとなり、ガンマナイフの導入も実現します。同センターにはPET-CTが3機、更



にサイクロトロンも設置され、近距離なら(二時間以内)アイソトープの他施設供給も可能となります。更に、重粒子線治療装置の設置が産学協同事業の一環としてようやく視野に入っており参りました。勤勉優秀な医療スタッフに恵まれた当病院はこれらの先進医療器具の充実を以って地域医療に益々貢献すべく努力致しております。とは言え、医療の基本は「ヒト」にあります。中でも医師は要中の要であります。当大病院の医師の「姿勢」は実直・勤勉・奉仕の三文字に尽きます。更に「前傾姿勢」が加われば当大病院は益々発

展する余地を残しております。小生が獨協医大に赴任した十年前、県内の地方部会・医会における役員は元より、主要病院におけるポストもめのはな同窓は極めて少なく大変寂しい思いを致しました。状況が劇的に改善された訳ではありませんが、着実にめのはな同窓生は栃木に根をおろしつつあります。前述のPET-CTセンターの責任者(センター長・教授)には国立がんセンター東病院の村上康二医長(昭61)が内定致しております。また、当科の深澤一雄助教(昭55)

も昨年11月に教授に昇進致しました。これも、故郷江昌平名誉教授(昭23)、安村美博名誉教授(昭26)、故下沢淳海名誉教授(昭31)、上山滋太郎名誉教授(昭33)、故嶋田晃一郎名誉教授(昭37)、丹羽章名誉教授(昭38)、安田耕作教授(昭42)、崎尾秀彰教授(昭44)始めめのはな同窓会の先達のご支援の賜物と感謝致しております。

栃木在住の同窓会員からよく言われる事ですが、当大病院は真に急速な進歩発展を内的にも外的にも遂げております。昨年は全職員が一丸となって努力し、その結果見事に日本医療機

能評価機構の審査（ニューバージョン）を一切の保留無しでパス致しました。責任者として真に安堵致しましたが、これも医療安全管理部を全国に先駆けて設置し、医療安全対策に最大限の努力を払ってきたことが順当に評価された結果と考ええます。さて、北関東道路壬生・宇都宮インターが完成し、県内各地から当大病院へのアクセスは従来とは比較にならないほど便利になりました。数年内にインターと大病院は直結され、更に北関東道路が完成した暁には当病院は文字通り「北関東の心臓部」とな

ります。環境にも恵まれております。「森の中の病院」というキャッチフレーズがこれ程似合う大病院を知りません。講演などで当医大を訪れた先生方が全て異口同音に環境の素晴らしさを称えてくれます。緑に囲まれながら当病院は特定機能病院としての先進医療に努めて参ります。職員一同地道な努力を重ねて参りますが、ゐのはな同窓会の皆様方の益々のご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

母校・ゐのはな会の益々のご発展を祈念して記す。

平成17年1月

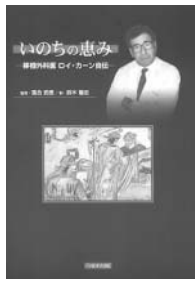
## 同窓会員著書の紹介

ロイ・カーン 著

鈴木龍志 落合武徳(昭41) 監修

「このちの恵み 移植外科医ロイ・カーン自伝」

千葉労災病院院長 深尾 立(昭39)  
へるす出版 定価 3,000円



著者のロイ・カーンは本書に現代外科学の巨人として紹介されているトーマス・

スタールと並び称せられる、現在の臓器移植外科の発展を導いた巨星である。移植の揺籃期から現在までに著者が師と仰ぐピーター・メダワーをはじめ交流した名高い研究者や医師達の人物が生き生きと描き出されていることが本書の一番

の魅力である。移植先進国の英国であっても臓器移植に関心を持つことがあざけりの的とされた時代に、著者がなぜ移植に惹かれるようになったのか。研究する時間や研究費もなく劣悪な研究環境の中で、食費にも困る生活しながら一歩ずつ道を切り開いてきた姿。英国における初期の移植医療の実情と苦労が分かるところが第二の魅力である。英国もそうであったのかとわれわれは大いに共感を覚えるところである。著者が世に出るきっかけとなり、1998年の定年に至るまでメインテーマとなつた免疫抑制剤の開発や有名な移植手術の逸話も非常に興味深い。またヨーロッパでも英語で書かれていない論文は広大な英語圏の研究者の目に止まることがないために、英国とフランスは隣国でありながらフランスの移植事情がほとんど知られていなかった話にも驚かされる。

第3の魅力は著者のさまざまな努力の合間合間に挟まれている患者の姿である。多くの患者達が勇気を持ち苦難に立ち向かい貴重な教訓を与えて亡くなっていったり、平穏な生をかちえた逸話がいくつか紹介されて

このたび、メジカルビュー社の依頼を受け、単行書「前立腺癌のすべて―基礎から実地診療まで―」の改訂版を発行した。1994年に発行した初版は幸いにも予想外の評価をいただき、第7刷まで出版された。しかし、



伊藤晴夫 編

改訂版「前立腺癌のすべて―基礎から実地診療まで―」

メジカルビュー社 定価 10,000円

伊藤晴夫(昭39)

その後5年間の前立腺癌に関する基礎的および臨床的研究の進歩には著しいものがある。本書は、「基礎編」、「臨床・実地編」、「実地症例への対応編」よりなる。今回、「基礎編」では、疫学における新発見、家族性前立腺癌をはじめとする分子生物学的研究の進歩などを、「臨床・実地編」では癌の検出率や治療予後などを予測する各種のノモグラム、内分泌療法における新



萩原季葉(萩原彌四郎 昭23) 著

「萩原季葉集 雁の頃」

近代文芸社 定価 100円

著者あとがきより 第一句集「智に働きて」を出したのが丁度還暦で、定年退官という私にとって節目の年だったので、少なくとも十年後位の節目の年

たな展開、さらに、鏡視下前立腺全摘除術やブラキセラピーなどを追加した。「実地症例への対応編」では新たに、「間欠的内分泌療法を選択した患者」、「二次内分泌療法とデキサメサゾン療法が有効であった患者」、「小線源治療を希望した患者」など5項を加えた。本書は初版と同じく、内容の統一を考慮して、千葉大学泌尿器科学教室の在籍中および最近まで在籍していた医師のみで纏めた。千葉大学泌尿器科では初代の百瀬剛一教授、二代目の島崎 淳教授とも前立腺癌の研究にもっとも力を入れて来られていたので、臨床症例も豊富で研究の水準も極めて高いという状況にあったために可能であった。前立腺癌は、米国では男性における癌発生率の第一位を占めるが、近年、日本においても高齢者の増加、食事の欧米化に伴い、増加の一途をたどっている。本邦における1998年の前立腺癌罹患率は、人口10万人あたり19.9で、30年前の約3倍となった。これからの25年間に更に約4倍になると推測されている。本症の分子生物学・診断・治療に関する論文数は泌尿器科領域では言うに及ばず、すべての悪性腫瘍の中でもトップを占めるのではないかと思われる。このような状況下では泌尿器科医にとっても前立腺癌の最新情報に精通することは大変である。また、前立腺癌患者に最初に接する可能性のある内科医、外科医、整形外科医にとっても前立腺癌を理解しておくことは有益だと考える。

には次の句集をと考えていました。古希を迎えて第二句集「独楽」を出しました。このときには編集担当者が変わったりし、校正も多少難で、我ながら不満足なものとなりました。改めて再上梓するところまで行かず、傘寿には必ずしかりした第三句集を出して面目を保とうと思っておりましたところ、7年目に喜寿になり、しかも紀元二千年という大きな節目の年に当たったので、第二句集の補正と旧二句集の八つまみ食いVを兼ねて「遠き日」を出し、第三句集の準備に本腰を入れることにしました。その間、平成13年の暮に

軽度の脳虚血発作に見舞われましたが、幸い、存えることが出来、ぼつぼつと句をかきとめられるようにはなりました。しかし、予定の傘寿が近付いて、それまでに句集原稿をまとめ上げるアクティヴィティがないので、傘寿(80)である間にその仕事を進め、拙いながら形を整える事ができ、半寿(81)寸前に上梓することが出来ましたが、どうも未熟で、心許無い気がしています。上梓に当たり懇切なお手配をいただいた近代文芸社の宝田淳子様に、厚く御礼申し上げます。

三輪清三、森田秀一、柳澤利喜男の諸教授が教育者の立場から夫々の長いご経験医学上の成果、信念などを披露されております。卒業後に多くの道で分化してゆくであろう胚細胞のわれわれが、社会の中で、医学医療の分野で大成するようにとの激励と温情が込められて頭が下がります。ここにお一人お一人の文章を紹介できず残念ですが、鈴木正夫教授は母校の東大医学部のクラス会や本学の経験からも、この種の卒業記念誌が出たことは未だ知らないと言われています。

友を偲ぶ書物ともなりました。昨年の「あのはな」新春号で福田康一郎医学研究院長が詳述されていますが、千葉大学医学部も大変な変革期を迎え、重要な時期にあると肌身に感じます。本同窓会の大切さを会員として自覚し、後に続いてくる卒業生諸君が立派に巣立ち、広い社会で大成してゆく教育環境づくりにも期待します。

- 平成16年 表彰
- 秋の褒章・叙勲
- 紫綬褒章
- 谷口 克(昭42)
- 瑞宝中綬章
- 石黒 義彦(昭24)
- 村山 智(昭26)
- 旭日中綬章
- 仙波 恒雄(昭32)
- 瑞宝小綬章
- 前田 裕(昭23)
- 平成16年 表彰
- 日本医師会最高優功賞
- 藤森 宗徳(昭37)

三一会の卒業記念誌

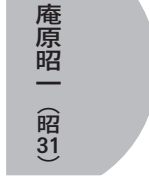
「潮音」

半世紀前の昭和31年3月の本学卒業の同級生達が当時作成した卒業記念誌につき、ご紹介いたします。

B5版です。序文、教授17名、学生55名の自由投稿文、アンケートによる各学生のプロフィール、あとがき、よりなり、特に恩師方の玉稿は貴重な名文です。

赤松茂、加賀谷凡秋、河合直次、川喜多愛郎、北村武、小林龍男、斎藤十六、鈴木正夫、鈴木次郎、鈴木宜民、滝沢延次郎、谷川久治、中山恒明、福田篤郎、

半世紀を経てわれわれも老眼となり、ガリ版もかすれたり、失ったりして、昨年現クラスの代表幹事の小野清四郎君、編集責任者の山口慶三君などの努力で、大きなA5版の復刻版(北川定謙君提案)が出来、配布されました。表紙の絵(山口庚児君)も拡大され、読み易くなった同級生の文章を再読、初読してみると、学生時代の経験や考えたことがいかに鮮烈であったか、



谷川久治教授の文章にある重要なリード・タイム(孵化期間)であったかが解かりました。83名の友も既に23名は惜しくも鬼籍に入り、

潮音(しほのね) 島崎藤村

わきてながるゝ

やほじほの

そこにいざよふ

うみの琴

しらべもふかし

もつかはの

よろづおなみを

よびあつめ

ときみちくれば

うらゝかに

とほきこゆる

はるのしほのね

四金会開催のお知らせ

平成17年2月23日(水)

午後5時30分より

千葉スカイウインドウズ

東天紅(千葉駅前そごう西隣りセンシティタワー22階)

同窓会の方々の出席をお願い致します。

会費は3,000円です。

連絡先

千葉大学あのはな同窓会

電話 043-202-3750

千葉医学雑誌80巻 5号目次

千葉医学会特別講演

細胞周期と放射線 その2 寺島東洋三

症例

Schwannoma in the spinal lumbar canal located at the same level of degenerative spondylolisthesis: a case report

Tsuyoshi Sakuma, Seiji Ohtori, Kazuhisa Takahashi, Akihiko Okawa, Yasuchika Aoki, Mitsuhiro Hashimoto, Tomoyuki Ozawa, Tomoko Saito, Kan Tsuchiya and Hideshige Moriya

A case of postoperative strangulating obstruction of the sigmoid colon

Yasunori Akutsu, Hisahiro Matsubara, Masato Endo, Toshihiko Hoshino, Yushin Yoshinaga, Yoshihito Ota, Yoza Tsunoda, Yukimasa Miyazawa, Tetsuro Urashima, Taichi Kawashima and Takenori Ochiai

話題

亥鼻分館所蔵・医事文化資料について 樋口誠太郎

学会

第1079回千葉医学会例会・第3回呼吸器内科例会(第17回呼吸器内科同門会)

第1084回千葉医学会例会・第21回千葉精神科集談会

第16~25回千葉県輸血研究会

編集後記

千葉医学雑誌80巻 6号目次

展望

肺がん組織分類の進展と課題: WHO分類改訂から5年を経て 中谷行雄

医療情報から病院企画経営へ: 医療情報の発展と応用 高林克日己

症例

Far-advanced gastric carcinoma successfully treated by combination chemotherapy with 5-fluorouracil and low-dose cisplatin: report of a case

Fumihiko Miura, Kazuhiko Jinguu, Yuuji Sugamoto, Takenori Ochiai, Takao Suzuki, Tadahiyo Takada, Hideki Yasuda, Ikuo Nagashima, Hodaka Amano, Masahiro Yoshida

千葉大学病院において生体部分肝移植手術を実施した8症例

小林進 落合武徳 他

学会

第1075回千葉医学会例会・第21回第二内科教室例会

第1083回千葉医学会例会・第11回千葉泌尿器科同門会学術集会

編集後記

80巻総目次・索引

# クラス会

## 白兔会

(昭17)

昭和17年9月卒業の我がクラスは、卒業のとき79名だったのが、11名戦死、戦後病死する者が相次いで、現在は28名になってしまった。みんな米寿を迎えるような高齢になり、体調不良を訴える者が多く、クラス会を開催しても出席できる者は数名に過ぎず、次第に寂しくなってきた。

平成16年11月14日(日)  
正午より、有志による白兔会の懇親会を東京駅構内の「精養軒」

で開催したところ、級友の出席者は僅かに3名(大村光藤村満寿夫、水間正冬)のみで、今までよく出席していた窪田静夫、下山賢次、本間哲雄の3君はいずれも体調が思わしくな



く今回は欠席した。それでも故人の奥様がいつものように4名(浦部秀子、木村照子、橋爪文子、村上レイ子)出席して下さったので、7名で2時間半有余、思い出話や近況報告などで楽しい歓談のひと時を過ごすことができた。出席者が少なくても、今後もこの会を続けて貰いたいとの皆さんの要望が強いので、来年は4月10日(日)に開催することとし、又会うのを楽しみにして散会した。

(写真、前列左から藤村大村、水間、後列左から浦部、村上、木村、橋爪)  
(水間正冬)

## 二二一会

(昭21)

11月4日、京成ホテルミラマールにて、クラス会を開催した。昨年までは集まり易いからの理由で、東京で行っていたが、政令都市



数歳の年齢であるが、豊饒として卒業以来の再会という仲間もいた。大磯君は名古屋から、中島ご夫妻は浜松からのご光来であった。ホテルとの約束2時間では足りず、話足りないことを恨みつつ来年を期して散会した。

なお健康上の理由ではない。都合も欠席の仲人も数人おり、来年は一人も欠けることなく集まり易い東京での再会を誓(ちか)うた。

になって目覚ましい発展を遂げた千葉市を見ようというところで千葉で開催した。出席者は左記のとおりである。  
石原真、大磯英雄、大森幸夫、国井光智、郡山春男、佐藤三三、岳繁雄、中島浩二夫妻、萩野裕、本間三郎、山中茂、齋藤豊一 13名  
卒業後63年、いずれも80

昭和21年9月、空襲の跡も生々しい千葉で青雲の志をいだいて卒業した時は72名であったが現存者は28名である。  
(齋藤豊一)

## 二二一会

(昭22)

日新宿プラザホテルで行われた。出席者は級友13名同伴者2名未亡人1名の計16名であった。都合悪く欠席したメンバーが多く今年はやや寂しい感があつた。開会は茂又君の挨拶で行われた。この一年物故者はなく胸をなでおろした。返信には足腰が弱くなり出席出来ないといった文面が多かつた。80の年は争えないということか。乾杯の音頭は福岡からはるばる参加してくれた竹内君がとってくれた。参加者からは一人一人近況と味わいのある軽妙な話があつた。最後に参加女性も一緒に三三高寮歌、琵琶湖周航の歌、を歌い一年後を期して宴をとじた。

出席者：家本誠一、石橋祝、今井力、沖真澄、加藤周、笠川猛、神田勝夫、貫洞一



夫婦、清水健三、竹内辰五郎、新田実男夫妻、茂又眞祐、若月美博、内藤恒子 (新田実男)

## もぐら会

(昭23)

猛暑漸くにして去つた9月16日。先の日米戦争で、空襲を避けての地下防空壕より、何時か土を出でて天空を飛翔せん、との願望よりの名称、わが「土龍会(もぐら会)」は毎年恒例の東京ステーションホテルで行われた。集いし者22名、幹事は海老原、大久保の両君である。

先ずは、この一年間に没した、佐藤運郎、鈴木隆之、石幡輝保、佐藤敬夫をして、7月末に逝去の前学長吉田亮、5君の冥福を祈り、黙禱。乾杯は、萩原君の音頭により、本日病欠の各君の回復を願い、本年傘寿の老医各位の米寿、卒寿目指してのお互いの健康と再会とを祝し、高々と杯をあげた。少時のテーブル毎の歓談後、司会より「各自の生き様、趣味、思う処などを語れ。」と。先ずは、少数ながら元気でフルタイム勤務、剩えゴルフに健康を求めあり。孝行息子に自院を譲り、馴染みの老患者のため、週一(二日診療)を楽しみあり。或は老人保健施設で話し相手になり喜ばれるあり。自院は廃業閉鎖し、10年後20年後を夢見て若木の植付け、庭木の手入れに汗を流すもあつた。参会者中、彼が誰か分らず、暫し話すうち「ああ、君はN君か!」と、二十年ぶりの出席もあつた。食事の途中よりは、夫々席を換えての回顧談、自慢話、現在の事なども、極めて懐かしく楽しく時の経つのを忘れた。予定時刻でも話は尽きぬが、お互いに健康に留意し、不参加者を勧誘しての多数人員による、



吉岡宏  
三、吉  
田作、  
吉田充  
(伊東  
和人)

来年の再会を約しての散会となった。

尚、次期幹事は板垣、上野の両君にお願いし、平成17年9月24日(土)に定まった。

多くの友人を伴っての参加により、平均しての「傘寿の祝」として集まり、大いに将来を語ろうではな

出席者：板垣修造、伊東和人、岩間定夫、上野高次、海老原恒雄、大久保欽司、大津饒、木村滋、工藤興一、窪谷満雄、柴田鐵郎、杉山静也、奈良四郎、西堀彦、西村文夫、萩原彌四郎、平沢頭一、前田裕、宮崎隆次、

三三三会

(昭33)

昭和33年卒のクラス会は平成13年3月(高松)以後小休止したが、卒業後46年になり、みんな喜寿も過ぎたので、そろそろ開催しようということになり、千葉在住有志を中心に昨年の暮れから企画し、準備を進め、平成16年7月10日J.R千葉駅近くのセンチテータワー23階にある東天紅で行われた。卒業時81名のクラスで、物故者10名、消息不明1名以外の70名中今回の出席者は24名、うち3名が夫人同伴で27名の会となった。

開会に先立ち前回以後の物故者、赤松巨、石田三郎両君の冥福を祈って黙祷した後、近藤幹事の挨拶、はるか遠方から参加した安里君(沖繩)の音頭で乾杯と続き、卒業当時とは様変わりした市中の景色を見下ろしながら3つの円卓を囲んでの和気溢れる宴会が始まった。幹事の発案で、参会者



君の元  
気な声  
が再び  
戻って  
来る日  
を切望  
する。  
出席者  
全員  
の写真  
は一目  
左から  
西村  
夫人、  
今留夫  
人、松  
岡祐之  
磯野可  
一、浜

のいずれ劣らぬ話し上手を勘案して各人の近況報告は敢えて行わなかったが、各テーブル毎、或いはテーブルを廻って健在を確かめ合い、欠席者の返信に書かれた近況を回覧しつつしている内に早くも時は過ぎ、次

回は来年、浜野恭一君の幹事で東京にて開催と決定した。別室で写真撮影の後解散したが、明日にでもまた会うような別れ方はクラス会ならではの思われた。また欠席者の内31名から返信があり、今も多忙な日々を送っている人が多いのは同慶の至りであるが、療養中と知らせて来た大坪脩雄

野恭一、小林みち子、新井礼子、椎名夫人。二列目左から西村明、武田從信、加藤直幸、宇野一真、石川稔生、小形岳三郎、今留淳、並木徳重郎。三列目左から近藤洋一郎、平山守、安里洋、佐藤俊一、大槻一雄、

第45回山紫会

(昭34)

御子柴幸男、外丸和弘、椎名益男。四列目左から清水文七、嶋田俊恒、柏戸正英。(嶋田俊恒)



に旅立たれた11名の級友へ黙とうを捧げることから始まった。今回特記すべきことは、章文鑑君が浦島伝説の太郎のように通訳の妹さんを伴って突然現れたことだった。彼は1960年に渡米して神経外科専門医となったが今ではニューヨーク郊外で大家族に囲まれ悠々自適のゴルフ(ハンデ20)三昧の日々を送っている。章君に早速乾杯の発声を頼んだ。達者な日本語で通訳は全く不要であった。アルコー

頼んだ。達者な日本語で通訳は全く不要であった。アルコーが少し入ったところで端のテーブルから一人ずつ現況報告も多くは古希も過ぎ今年は酉年の年男・年女となる者も多い筈。過去の夢の軌跡を語る者から、これから第三の人生に出帆すると「不確実な航海」を不安そうに語る者まで、年の移ろい早いことを実感させるスピーチの数々であった。章君がかって

今朝爰鼻冷  
学子無処群  
登致屋頂上  
遠望地窮処  
卒業記念アルバムに残した彼の詩である。彼は爰鼻に留まらず、当時としては遙か遠くに望まれたアメリカに渡ったのであった。喫茶店のような部屋で二次会は灯がともる5時まで続いた。いまだ若々しい芳香を漂わす、かつての「三人娘」が最後まで残って昔話に花を咲かせてくれた。春がきて 夏が過ぎ 光陰矢のごとく去る 昔の恋は終わり 遠い過去のものとなる きみは この世の憂いを抱え きみの心は 倦み疲れ 虚ろだ 今時の若者は きみには もう 理解できない そんな時 ある日 きみは町に戻ってくる きみが青春と幸福に別れを告げた その町に それはもう 遠い昔に 過ぎたこと ても その喫茶店はまだある きみはその喫茶店に入って 思いを巡らす (「小さな喫茶店」で、エルンスト・ノイバッハ、1928年)

来秋の東京での再会を約

平成6年卒同窓会

平成16年12月11日(土)午後6時より、医学部平成6年卒同窓会がセンタータワー23階の東天紅で開催されました。卒後10年を記



先生や、すでに結婚して、子供も小学生になられていらっしゃる先生など、話に花が咲きました。二次会は三々五々、約15人が参加して、夜更けまで杯を交わしたようです。初めての企画であ

し、幹事の谷嶋俊雄君に感謝しつつ、30名はそれぞれの家路についた。出席者：荒木英爾、東紀男、石川堯夫、植田伸夫、遠藤幸男、兼重忠司、神田芳郎、倉持正昭、佐々木輝幸、齋藤篤、塩川喜之、清水順三

郎、清水精子、田口勝、館野之男、長尾佳子、西原宏野口徹男、原澤寿三男、飯田静夫、飯田暢子、藤田昌宏、松原保、松本博雄、谷嶋俊雄、山田明義、矢野征多、吉井功、横山宏、韋文鑑 (吉井功)

念しての同窓会となり、かなり懐かしい面々が集まりました。名古屋からは遠路はるばる大塚秀美先生にいらして頂き、御礼申し上げます。総勢29人の、2時間弱の会でしたが非常に盛況でした。御開業されている

水泳部東医体連覇祝賀会



り、十分に連絡先が確認できず、連絡がつかなかった先生方にはお詫び申し上げます。来年度以降も同じような会を企画致しますので、

今回連絡がつかなかった先生は小生までご連絡頂けると幸いです。(福田勝之、大鳥精司、田原正道)

連絡先

千葉大学整形外科  
電話：043-256-2117  
Email:shocho@faculty.chiba-u.jp

平成16年度東日本医科学生総合体育大会において水泳部が優勝し連覇を達成したことを祝して、平成16年10月23日(土)に「菜の花プラザ」において、OB会の呼びかけで祝賀会が行われた。水泳部創立以来の快挙に現役部員とOB一同喜びを分かち合い盛会となった。駆けつけて下さったOBは、橋正道名誉教授(顧問)、青木謹(昭36)、勝田貞夫(昭37)、遠藤富士乗(昭50)、新井貞男(昭53)、伊藤公道(昭53)、海保隆(昭57)、松原久裕(昭59)、坂井誠一(昭60)、中川敬一(昭60)、園田昌毅(昭61)、北村伸哉(平12)、黒野健司(平9)、小林一貴(平9)、大和田千佳子(平10)、上谷美礼(平12)、小川喜胤(平15)、新津富央(平15)、森野知樹(平15)、有川俊輔(平16)、佐塚哲太郎(平16)、中田泰幸(平16)の諸先生。

白澤浩(昭57)

北陸のはな会

各地のはな会  
だより

平成16年9月24日(金)、富山市内の奥田屋で北陸のはな会が催されました。今回は、いろいろの学会等が重なり、会員の皆様の日程調整がつかず、参加者は例年に比べて少なく片山喬(昭30)、辻陽雄(昭33)、星山圭鉦(昭44)、寺澤捷年(昭45)、布施秀樹(昭51)の5名の先生方でした。会には片山喬名誉教授の御挨拶があり、ひきつづき辻陽雄名誉教授の乾杯の御発声で会が始まりました。少人数のこともあり、例年にもまして、なごやかな雰囲気です。その後各人より近況報告があり、御多分に漏れず最近の医療事情の厳しい状況についての話題もできましたが、学生時代の授業、クラブ活動の思い出や大学時代の昔話に花が咲き、



終始楽しいひとときを過ごすことができました。最後に寺澤捷年教授による万歳三唱があり会はお開きとなりました。北陸のはな会は今、富山、石川三県の千葉大学医学部関係者が会員となっておりますが、最近会員数は若干減少しております。また例年御出席いただいている先生方は10名前後と固定化しておりますので、いままで御参加されない方は次回からぜひ御出席されることを願っております。なお当方の不手際で連絡が行かない会員の方もおられるかもしれませんが、お手数ですが御連絡いただけたら幸いです。(布施秀樹)

埼玉るのはな会

去る8月29日、8月の最終日曜日に、平成16年度のはな同窓会埼玉支部総会が、さいたま市大宮区のパ



レスホテル大宮で開かれた。台風16号の余波で雨の日曜日であったが、43名の出席者で大変盛会であった。特に平成卒の若い先生方6名の参加があり、懇親会の席では大いに盛り上がり

いた。総会は小生(松山迪也 昭35)の司会で始まり、まず昨年度に亡くなられた6名の方々(赤松利信先生、早川尚男先生、佐藤直義先生、島田茂先生、荻野進先生、武井敏彦先生)に黙祷を捧げた。

次いで支部長井上幸万先生(昭27)の挨拶と会計報告があり、副支部長吉川広和先生(昭40)による本部報告があった。

続いて各事業報告として、第2回のゴルフコンペが東松山C・Cで17名の参加で行われ、優勝は伊藤敏夫先生(昭30)であったことが幹事の林田和也先生(昭52)から報告があった。

ついで、既に5号の発行をみた支部誌「埼玉のはな」の編集責任者伊藤進先生(昭43)の苦勞話があり、予算面のことや、原稿の集まり具合のことなど会員の一層の協力を求められた。

更に今回詳細な埼玉支部の会員名簿が野口哲夫先生の手で完成されたことにつき、野口先生よりお話があった。今迄名簿はあったが不備が多かったので、今回は本部に問い合わせたりして完成をみたものである。近日発行の予定。

今回永年支部長を務められた井上幸万先生が勇退を

申し出られたので、次期支部長として伊藤敏夫先生を満場一致で御推薦申し上げた。幸い伊藤先生の御承諾が得られたので、来年度より伊藤支部長となる。また今迄井上先生が代行されていた会計の仕事も、正式に責任者として中村勉先生(昭52)をお願いすることにした。

以上で総会議事を終了し、お祝の披露となった。まず喜寿のお祝を、今井兆佳先生、菊池善秀先生、小久保早苗先生、佐藤智則先生、中神義男先生、奈良林定先生(昭30)に、米寿のお祝を遠藤泰蔵先生、水間正冬先生(昭2)に差し上げた。又日本医師会最高優功賞を受けた埼玉県医師会副会長の阪信先生(昭35)にも、お祝を差し上げた。

ついで井上幸万先生の座長で講演会に移った。まず大学附属病院長の藤澤武彦教授より「変革する大学」一当面する諸問題と今後の課題一について講演があった。独立法人化に伴う大病院の機構改革や、新しい診療科の再編成について話され、今後は大病院といえども独立採算で国からの援助は望めなくなる、そのために今迄の教育、研究、診療に加えて、経営面も考

えなくてはならないとの大変厳しいお話で、同窓会もより密接な協力をお願いしたいと訴えられた。更に「のはな同窓会」一現状と将来の展望一と題して東京支部長の小幡裕先生(昭28)、のはな同窓会長渡辺武先生(昭27)が話された。同窓会の活性化に向けて、首都圏のはな会の立ち上げ、若い同窓会員、特に在校生の参加を図ることなどであった。お二人の若々しい情熱的なお話に会員も深く考えるところがあった。埼玉も今回は間に合わなかったが、次回からは在校生もお招きしたいと考えている。

懇親会は林田和也先生の司会で始まった。最長老でなお若々しい名尾良憲法先生(昭13)の乾杯が始まり、昨年1月に埼玉医科大学の循環器内科教授に就任された小見山伸之先生(昭58)の御挨拶や、深谷赤十字病院院長諏訪敏一先生(昭43)同部長山下純男先生(昭58)、埼玉県厚生連熊谷総合病院前院長栃木亮太郎先生(昭40)、さいたま赤十字病院部長門山周文先生(昭51)中川宏治先生(昭59)により各病院の医局員の紹介があった。今回は若い先生方

の出席も多く、懇親会も例年以上に盛り上がりつつあった。

最後に来年担当の浦和、与野地区を代表して林田先生が挨拶をされ、副支部長田口勝先生(昭34)の中締でお開きとなった。(松山迪也)

安房るのはな会

平成16年4月28日、安房のはな会総会が本学精神医学教授、伊豫雅臣先生をお迎えしてたてやま夕日海岸ホテルで開催された。総会議事に続き、伊豫教授による『不安と痛み』と題し、精神科の中でも新しい分野の認知行動療法について判り易く御講演いただいた後、国立大学の法人化の話や新棟建設の話など大学関連のニュースも伺ったのち、懇親会に移った。

懇親会では、たまたま教授と同期の人が3人も出席しており、いつになく賑やかであった。尚、当日の出席者は、本位田泰介会長(昭28)



以下、野原宏(専17)、貴家昭而(昭30)、青木謙(昭36)、関谷信平(昭38)、上村公平(昭50)、西川義明(昭34)、渡辺伸宏(昭39)、渡辺啓治(昭61)、林宗寛(昭60)、武内重樹(北里大昭53)、吉田泰介(金沢大昭15)、三田謙(平3)、天野普(平3)、片平裕次(平4)、佐野元昭(昭43)、小石川比良来(昭59)、野原正(医師会長)(関谷信平)

### ゐのはな会の今後の展開について

会長 小幡 裕 (昭28)

21世紀に入って、はや5年目を迎えることになりましたが、会員の皆様には御健勝のことと存じます。

平成16年の一年間は様々な面で多難な年でした。異常気象、台風、地震などの天災があり、またイラクを始めとする国際紛争、また国内でも倫理面を含めて、諸々の人災に遭遇しました。17年度は、明るい良い年であることを願っているところです。

ところで、医学、医療の世界でも、新たな研修医制度、医療機関の経営面、混合診療の問題、さらには、医療過誤などがマスコミでも取り上げられ、社会問題になってきております。これらは医療界全体として乗り越えていかなければなら

ないことと思われま

一方、大学法人化は初年度を迎えました。6月の東京ゐのはな会総会の際には、磯野可一学長から「国立大学法人 千葉大学の21世紀への展望」と題して、再建への意気込みについて、迫力ある話を伺いました。法人化に関して、「同窓会の役割りはどうあるべきか」は、これからの考えていかなければならない問題になると思われま

ところで、ゐのはな同窓会の制度も変わりつつあります。会報に掲載されましたが、会則を変更して甲乙会員を正会員に一本化し、学生の卒業研修、就職などの要望も分かるように、学生会員の参加が認められま

する場として会務に総務会が設けられました。

16年9月には、「首都圏ゐのはな会」が神奈川支部(富田支部長)の主催で行なわれました。その際に、同窓会のあり方に関してフォーラムが企画され、各支部から選出された若い会員の方々が忌憚のない活発な意見が出されました。要約すると、「会員はすべて組織の平等な一員であり、この会は共同体である。親睦が大

事であり、会員を結び付けることによって、活性化が始まる。なお、当然のことながら、機能体として母校の発展にも貢献しなければならぬ」ということなどが熱心に討論されました。東京支部からは、済陽副会長がフォーラムに参加し、活性化について、かねてからの持論を展開しました。

これらの意見をふまえて11月の千葉での常任理事会において、渡辺会長の意向を受けて全国支部長会(仮称)を17年2月に東京支部が担当して開催することになり、今後の同窓会全体の組織作り、さらには活動の方針を話し合うことになりました。この様な流れは、首都圏ゐのはな会をはじめ

消し、今後全国的に広がり、実りつつあるものと考えています。

東京ゐのはな会会報第8号 巻頭言より。

### 第29回ゐのはな美術展開催

石谷治彦 (昭24)

連絡の上、入会、出品の程 お願い申し上げます。

東京都新宿区 高田馬場1-25-29 石谷医院内

幹事 石谷治彦 (昭24) 山口庚児 (昭31) 島田哲男 (昭41) 酒井忠昭 (昭42) 連絡先: ゐのはな美術展事務所 〒169-00075

TEL 03-33200-0078 FAX 03-33200-0253 E-mail: hshian@sjk.tokyo.or.jp

### 第29回ゐのはな美術展会員出品作品目録

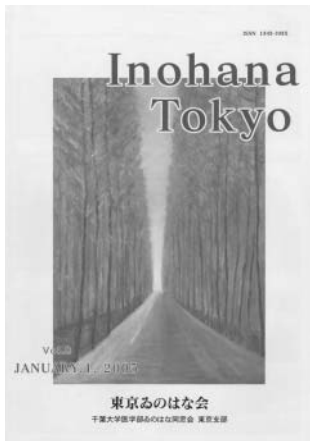
氏名 年次

(記載なしは油彩)

- 酒井忠昭 (昭42) 湖畔20F 郊外20F
- 島田哲男 (昭41) 裸婦 パステル8号 裸婦6号
- 石谷治彦 (昭24) 早春の窓外10F 熱海大観荘10F 水彩
- 堀越俊男 (昭26) 静物6F パステル
- 柴崎 晃 (昭28) 緑陰 安曇野穂高川10F
- 山川晋吾 (昭24) 妖精A 6P 妖精 B 15F
- 今井力 (昭22) テスキー・クリムロフの村8号
- 井上通 (昭24) 花10号 婦人像10号 水彩
- 大村光 (昭17) 室内10F 花と果物10P 犬吠埼6F
- 漆原昌人 (昭40) 丸椅子に座る女15号
- 長尾透 (昭16) コーヒー店横浜にて10F
- 神山英明 (昭22) 水族館10号
- 吉川廣和 (昭40) ムチジルの泉入り口30号 水彩
- 加瀬幸雄 (昭22) 書 晴嵐68×35 威風堂々53
- 山口庚児 (昭31) 橋のある風景 高松市栗林公園25F
- 野口真利 (昭40) 油彩15号 風景2点
- 川村孝子 (昭36) 黄色いスカート20号 レモンのある静物20号水彩
- 石井邦夫 (昭26) 5月の小石川後樂園 パステルF8 人物F20号 パステル
- 関根博 (昭26) 波頭F10号
- 宮下久夫 (昭38) 鶏頭6号 水彩
- 榎本貴夫 (昭47) 静かなる轟音10号

順不同

### 東京ゐのはな会



会報のまいた種が発展的に解

から、10数名の





# 故吉田亮先生を偲んで

千葉大学名誉教授 安達 元明 (昭38)



吉田亮先生には去る平成16年7月27日、肺炎のため逝去されました。先生は昭和23年9月千葉医科大学を卒業後、千葉大学医学部小児科学講師を経て、昭和43年1月医学部公衆衛生学教授に就任、昭和59年千葉大学長になるまで16年余り教室を主宰されました。

先生は学生時代には社会学研究会で活躍され、卒業後は新設される公衆衛生学教室の講師となる予定でしたが、教授就任予定者(故曾田長宗先生)が着任出来なくなつたため小児科学教室に進まれました。

先生の研究は、小児科学の分野と公衆衛生学の分野に関するものと大別されますが、小児科学領域では疫学、人工栄養児の栄養素代謝、気管支喘息の研究があげられます。特に小児気管支喘息の研究では、免疫学的手法をいち早く採り入

れ、気管支喘息発病に至る病態の解析に新しい知見を与えました。

公衆衛生学の分野では大気汚染の生態影響の研究があげられます。工業化による公害が社会問題として深刻化する中、千葉県でも大気汚染の地域住民の健康への影響が憂慮されました。

先生は小児科領域で行ってきた気管支喘息と環境因子に関する研究の知識・経験を基礎として、大気汚染の人体影響に関する研究を行いました。地域住民を対象とした大気汚染の疫学的調査法の確立、二酸化窒素の環境基準の妥当性の検討、大気汚染物質による呼吸器系への病変の動物実験による病理学的な解明等行いました。これらにより大気汚染が住民の健康を阻害することを疫学的に明らかにし、健康保持上守るべき二酸化窒素濃度を提唱し、二酸化窒素の環境基準の策定・見直し、公害健康被害補償法の原案作りに貢献されました。大気汚染による公害訴訟では、進行する大気汚染と共に急増する気管支喘息を臨床の場でもって感

じていたためか、一貫して患者、弱者側の立場を貫きました。

平成4年には第33回大気汚染学会会長を務められました。

教育面では千葉大学医学部長、千葉大学長として大学の管理・運営に貢献されました。医学部長として、文部省の「医学教育の改善に関する調査研究協力者会議」の一員として医学教育改革のための指針を示されました。学長として長期的展望の下に総合大学としての整備方針を策定し、教養部の改組、教育目標の設定と医学部6年他学部4年一貫教育を目指した教育改革の基本方針の策定など、現在の新しい大学の基礎造りに貢献されました。

先生は主な研究課題である大気汚染研究では常に社会で生活する人あつての公衆衛生学であることをわれわれに教えて下さいました。教室員の自主性を尊重され、時折少ない言葉で指導下さるだけで自由に研究させて下さいました。このため環境衛生、福祉関連の研究がばかりでなく臨床面・行政面にも多くの人材を輩出されました。

大学退官後は多くの公職を退かれ、趣味の油彩を楽

しんでおられました。永年のご功績により平成11年に勲二等旭日重光章を受けられました。

まだ遣り残されたこともあつたかと思いますが、大気汚染研究もフィールドを関西に移して継続すること

が出来る。先生の遺志は教えを受けた者の心の中に引き継がれています。先生どうぞ安らかにお休みください。

逝去後、正三位に叙せられました。

## 附属病院ニュース

病院長 藤澤 武彦 (昭42)

附属病院ニュース(平16・7・5平16・12)

○平成16年7月1日 救急救命士の気管内挿管受託実習生の受入

千葉市消防局からの依頼に基づき、救急救命士の気管内挿管に関する実習の受入を開始した。実習生は麻酔医の指導を受けながら30症例以上の気管内挿管実習を行う。現在までに2名の修了者が出ている。

○平成16年9月29日 病院経営改善に関する優秀提案発表会

中期計画を着実に実行し、更に高い水準の病院を実現するためには全教職員の努力と同時に計画実現のための財源捻出が必要不可欠だと考え、各部署から「経営改善に関する提案」の公募を行った。その中で特に優秀と評価された提案について

が出来た。先生のご遺志は教えを受けた者の心の中に引き継がれています。先生どうぞ安らかにお休みください。

逝去後、正三位に叙せられました。

○平成16年10月15日 第87回国立大学病院薬剤部長会議

本院を当番大学として行われた。主な議題は「国立大学病院薬剤部長会の運営について」「薬剤部における諸問題について」「薬学教育6年制に伴う長期実務実習の受け入れ体制について」であった。

○平成16年10月24日～30日 看護部職員のアメリカ視察研修

この研修は、諸外国の先進的な医療と看護技術を視察し、その成果を本院の業務に反映させることを目的として実施しているもので、今年度は、アメリカにおける医療提供システムや先進医療を支える看護の実態について実地視察及び研修を行

行った。

○平成16年10月25日 第41回全国国立大学病院手術部会議

本院を当番大学として行われた。主な議題は「手術部運営体制の整備について」「手術部における手術医学教育と運営体制の整備について」「手術部職員の充実について」「各地域での手術部レベルでの大学間の連携強化について」であった。

○平成16年11月1日 国立大学附属病院長会議事務局の設置

国立大学法人化に伴い、多様化する病院の諸課題等に対応するため、国立大学附属病院長会議事務局を都内に設置した。事務局では、病院長会議の庶務、経理、会議の開催及び病院損害賠償責任保険等の事務を行う。

○平成16年11月17日 脳死肺移植実施施設認定訪問審査

脳死肺移植施設認定に伴い、肺・心臓移植関連学会協議会から3名の審査員が来院し、脳死肺移植が行われる際の実施体制及び連絡体制等について具体的な審査が行われた。

○平成16年12月2日 民事訴訟における鑑定制度等の説明会

年々増加を続ける医療関係訴訟に関連して、民事訴訟における鑑定制度等の知識を深めることを目的として、千葉地方裁判所の小磯武男裁判長および他の裁判官を講師に招き、「医療訴訟における基礎理論」「複数鑑定制度」「複数鑑定実施事件の事例紹介」について説明会を開催した。

## おくやみ

- 原 蕃 (日本医大昭8)
- 小澤 弘 (日本医大昭12)
- 藤森 邦俊 (昭16)
- 弘中 秀典 (昭19)
- 桜井 清 (専19)
- 居初 良雄 (昭22)
- 佐々木司郎 (昭22)
- 石幡 輝保 (昭23)
- 佐藤 敬夫 (昭23)
- 石川 民雄 (昭24)

- 石黒 義彦 (昭24)
- 清水 舜一 (専24)
- 小川 和夫 (専25)
- 林 正秀 (専25)
- 渡辺 治基 (昭26)
- 大塚 功 (昭27)
- 白石 敏博 (横浜医専28)
- 山田 兼雄 (昭29)
- 石田 三郎 (昭33)
- 辰濃 治郎 (昭34)
- 上江洲 邦弘 (昭47)
- 堀中 悦夫 (昭47)

医学部学生編集委員企画インタビュー(その1)

栃木のりはな会・会長・柴崎晃先生、  
副会長・坂田早苗先生に伺う

栃木のりはな会を訪ねて

肌が寒く感じられるようになってきた、平成16年10月30日、学生委員二名で、栃木県宇都宮市に、栃木のりはな会の会長である柴崎晃先生、副会長である坂田早苗先生を訪ね、お話を伺った。

私たちは、あたたかく学生を迎え入れてくださり、緊張をほぐしてくださいました。柴崎先生、坂田先生の人の柄の良さに感銘を受けつつ、リラックスした雰囲気の中インタビューを行った。

学生：「まず始めに先生の経歴について簡単にお話ください。」  
柴崎：「私は昭和28年に千葉大学医学部を卒業、母校の第一外科に入学しました。当時第一外科で教授をしていただいたのが河合直治先生で、胸部外科を専攻して、ご指導いただきました。そして学位を取得してからは、私の出身でもある埼玉の深谷赤十字病院に、外科放射線科部長として4年ほど勤めておりましたが、昭和37年に宇都宮に縁がありまして、柴崎外科医院を開業し、現在は、息子に院長を譲り、メスを画筆に変えて、油絵の修行中です。」

坂田：「私は昭和34年に、千葉大学医学部卒業してから、母校の第二外科に入局し、中山恒明教授のご指導を頂きました。その後は、中山がん研究所付属有楽町診療所、上都賀病院外科、横須賀市立病院外科、医療法人中山会・宇都宮記念病院等に出張しておりましたが、昭和41年に宇都宮記念病院の副院長に赴任しました。その後、同病院の院長、医療法人中山会の理事長、医療法人北斗会の副院長を経まして、平成3年にミヤ健康クリニックを開業し、現在はミヤ健康戸笏クリニック名誉院長に就任しております。」

学生：「次に、栃木のりはな会の活動について簡単にお話ください。」  
柴崎：「栃木のりはな会には、研修先となっている病院も多くあるため、入れ替わりなども多くありますが、平均して、約100名の会員が在籍しております。栃木県内には、千葉大学の関連病院も多く、主として、4つの厚生連病院及び国際医療福祉大学、私的病院があります。県内の大学病院である獨協医科大学の教授に就任されている同窓会員の先生も数人おられ、支部としては大きい規模を誇っています。」

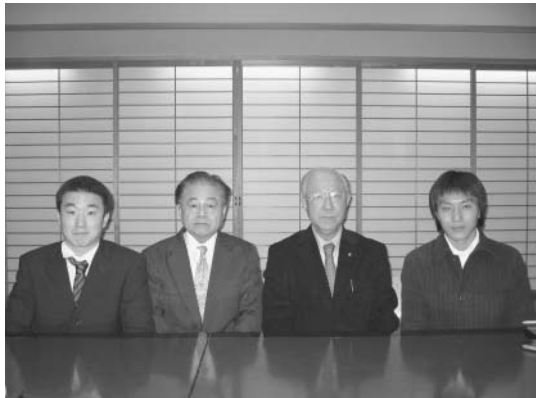
活動としまして、まず、栃木のりはな会の総会として、恒例の新年会を開いておられます。その際には、母校からは、同窓会会長の他、一名の若手教授をお招きし、学内の事情や、最近のトピックスなど、学術講演を拝聴して、その後、賑やかな親睦交流会となります。

3回、各科にわたる話題を中心に、充実した会をまとめています。この会には大学から本県の病院に出張されている先生方にも、短期間の場合でも、是非本会に出席していただきたいと考えております。その他には、

また、平成16年1月には、2、3年来の念願であった「とちぎ りはな」を発刊でき、大変喜ばしく思っております。他には、これから来るべき就職難の時代

夏には、一番会員の多い宇都宮市をのりはな会を中心に、納涼会も行っています。栃木のりはな会という懇話会という外科医の勉強会も、30名ほどの会員で、毎年

3回、各科にわたる話題を中心に、充実した会をまとめています。この会には大学から本県の病院に出張されている先生方にも、短期間の場合でも、是非本会に出席していただきたいと考えております。その他には、



柴崎：「私が開業した当時は、周りに千葉大学と縁のある病院がなかった為に患者を送ることが難しく悩みましたが、現在は上都賀総合病院、下都賀総合病院、石橋総合病院、塩谷総合病院といった千葉大学と縁の深い病院が出来た為、そういった悩みはなくなりました。その他にも、現在では、のりはな同窓会員で、大きな病院を経営されている先生方もおられますので、のりはな関係者の病診連携は、とてもやりやすくなったと言えます。」

また、平成16年1月には、2、3年来の念願であった「とちぎ りはな」を発刊でき、大変喜ばしく思っております。他には、これから来るべき就職難の時代

また、平成16年1月には、2、3年来の念願であった「とちぎ りはな」を発刊でき、大変喜ばしく思っております。他には、これから来るべき就職難の時代

また、平成16年1月には、2、3年来の念願であった「とちぎ りはな」を発刊でき、大変喜ばしく思っております。他には、これから来るべき就職難の時代

柴崎：「私が開業した当時は、周りに千葉大学と縁のある病院がなかった為に患者を送ることが難しく悩みましたが、現在は上都賀総合病院、下都賀総合病院、石橋総合病院、塩谷総合病院といった千葉大学と縁の深い病院が出来た為、そういった悩みはなくなりました。その他にも、現在では、のりはな同窓会員で、大きな病院を経営されている先生方もおられますので、のりはな関係者の病診連携は、とてもやりやすくなったと言えます。」

また、平成16年1月には、2、3年来の念願であった「とちぎ りはな」を発刊でき、大変喜ばしく思っております。他には、これから来るべき就職難の時代

また、平成16年1月には、2、3年来の念願であった「とちぎ りはな」を発刊でき、大変喜ばしく思っております。他には、これから来るべき就職難の時代

また、平成16年1月には、2、3年来の念願であった「とちぎ りはな」を発刊でき、大変喜ばしく思っております。他には、これから来るべき就職難の時代

柴崎：「栃木県は、保険の請求点数は、全国平均よりやや下がる傾向にあり、査定も厳しいようです。そういった基準は、全国統一されていないので、まだまだ改善していく必要があります。また、これは、別問題にして、今後の医療現場は、先々不透明で、医療保険制度改革、規制緩和、株式会社の参入、混合診療などなど、ともすれば医療保険制度の崩壊にもつながる危機感をもっております。」

坂田：「自治医科大学附属病院と、獨協医科大学附属病院ができ、時間が経過してきて、大分力をつけてきました。また、千葉大学は遠いという問題点があります。これらのことから、千葉大学としては、中小病院の人事や系列化、病診連携に少なからず影響を与えております。」

学生：「マッチングについての考えと、それについての栃木での取り組みについて何かあったらお願いします。」

坂田：「マッチングというシステムについては、このシステムは厚生労働省が実際に携わっている人の意見があまり聞かずに決め

柴崎：「皆さんは、今は学生さんで卒業してからのいろいろ選択肢を考えておられるわけですが、いろいろな情報が入ってくる中で、先にお話したような医療の展望をどう考えていますか？

学生：「今の学生に向けて一言何かありましたらお願いします。」

柴崎：「皆さんは、今は学生さんで卒業してからのいろいろ選択肢を考えておられるわけですが、いろいろな情報が入ってくる中で、先にお話したような医療の展望をどう考えていますか？

学生：「先生方、本日は、ありがとうございます。」

取材を終えて

千葉大学の先輩方は全国各地で活躍されているのだなということ、改めて実感し、そういった先輩方が、私達後輩の事を親身に考えられていてということに、大きな感銘を受けた。

また、栃木という地域の医療の特色について話を聞

医学部学生編集委員企画インタビュー(その2)

四国なのはな会  
なのはな会会長 小越章平先生に伺う

人生到る所に青山あり

カナカナカナ：日中の蒸し暑さが少し和らいだ8月の夕方、四万十川を眼下に臨む露天風呂に浸かりながら考えた。

(この川見たさから来たのは高校生。そして今は医師を志す大学生。次に来るとき自分は何を思い、何をしているのだろうか)

そんな思いを胸に秘めて高知県は南国市、四国なのはな会会長・小越章平先生(昭36)を訪ねた。

少し日に焼けた先生は、年齢よりも随分と若く見える笑顔で出迎えて下さった。そして私が四万十川で捕らえた野生のカメを手にして

くことができ、医療は、地域ごとの特色を踏まえた上で、実践していかねければならないと強く感じた。今後、機会があれば、様々な地域を訪ね、その地域の医療に触れていきたいと思う。

(4年 青木智広)  
(2年 幸本達矢)

テーブルは奥様が作って下さった土佐の山海の珍味で溢れ、空腹であった私の胃袋は見慣れないご馳走に騒いだ。土佐造りに始まり、刺身やイタドリ煮物など全てが新鮮で美味しかった。そして、先生に勧められるまま、口当たりの良い日本酒を飲んだ私は先ほどの緊張の反動から次第に楽しくなってきた。

先生は非常にユーモアと知性に富んだ方で、その上明るい話術は政治から芸能界に至るまで尽きなかった。どれほど新聞を読み、どこで情報を集めれば、このような知識の貯蔵とアウトプットができるのかが不思議なくらいであった。しかし話を伺うに連れ、それは例えば学生時代の部活動であった硬式テニスでの経験や、偉大であった先生の恩師(中山恒明先生)の存在などが複雑に影響し合っているのかと感じられてきた。またご自分でイラスト

も描かれた外科手術書(イラスト外科セミナー・医学書院)を出されるなど非常に器用な方でもある。現在もゴルフをおやりになるそうで腕前は「相当なもの」であられるようだ。というのも、先生が「ゴルフはシングルだ。」とおっしゃっ

た時に、ゴルフを知らなさ過ぎた私は「それは凄いのでしょうか。」などどの臆面もなく聞き返す有様であった。時間はあっという間に過ぎ、その時はやってきた。高知行き電話をして「よきこい祭りに連れて行ってやる。」と言われた時から、頭の半分では鳴子(踊りに用いる拍子木)が鳴っている。今年で51回目になるよきこい祭りの演舞会場に到着し、実際に踊りを目の当たりにするとそれは今まで見たことのない圧倒的なものであった。まさに老若男女入り混じり、踊り狂うのを見ると、酔いもあつたためか私はじっと見ていることにもどかしさすら覚えた。しかし何と云っても、踊り子と観光客とで違った返す夏の夜の街をすいすい突き進み、早足でしかついで行けない先生の姿が印象的だった。

頂いた先生の名刺を見たときのショックは忘れられない。それは表裏だけでは収まらず、見開きに印刷さ



れてあった。また先生は食道癌の名医であられるだけでなく、以前に経腸栄養剤であるエレンタールを開発していらしたそう。それだけに止まらず、なお日本機能性食品医学会理事長として、生活習慣病に対する世界大会(2006年11月品川プリンスホテルにて開催予定)を開くという夢を語っていらした。一言で表現させて頂けるなら「パワフル」に尽きるだろう。

生の大先輩として、小越先生に出会えたことを非常に誇りに思った。自分の冒頭の疑問の数ある答えの一つに影響を与えた事だけは間違いない。先生が千葉大学医学部の後輩に向けて下さったメッセージを伝えさせて頂く。「千葉大学の学生は全国的に活躍できるポテンシャルがある。どんな状況でも一隅を照らせ。」  
本当にどうもありがとうございました。

人事異動

- 助教就任 公衆衛生学 鈴木 洋一(東北大昭57)
- (東北大学院医学系 研究科講師より)
- 病理部 谷澤 徹(東医歯大昭61)
- (杏林大医学部 病理学講座講師より)
- 講師昇任 整形外科 山崎正志(昭58)
- (同助手より)

ご注意ください

新名簿(2006年版)が平成17年10月に発行されます。それに伴い調査カードをお送り致しますが、返信は「千葉大学なのはな同窓会」宛となっておりますので、ご確認ください。それ以外の調査カードは本同窓会とは関係ありません。また、なのはな同窓会を名乗り電話をかけてくるという事例が起きています。不審に感じられた場合は同窓会事務局にご確認ください。

# 社会活動紹介コーナー

日本社会における組織構造の変革が求められています。例えば、特定の機関がその機能を發揮して、地域・社会へ貢献することが挙げられましょう。ただし、既存の組織体系では対処しきれない事柄が多々あるなかでの新しい機能が求められております。そこで、今回は、千葉大学大学院医学研究院から発信している新しい組織体系による諸活動の一端を紹介することとしました。

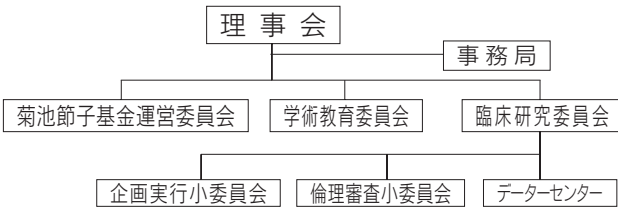
## NPO法人「先端医療フォーラム」の紹介

理事長 落合武徳  
(先端応用外科 教授)

特定非営利活動(NPO)促進法が、平成10年12月1日に施行され、その法律に基づいてNPO法人を設立する事が可能になりました。そこで落合を理事長に、旧第二外科の8名の同門の方が理事になって、NPO法人「先端医療フォーラム」の設立を千葉県に申請し、平成14年1月に承認されました。

NPO法人のメリットは登記や銀行口座が法人名でできる、社会的信用が増す、補助金を受けやすくなるなどの点があげられます。私達のNPO法人の目的は、ひとつは、大学で行っている先端的な医学の研究などをわかりやすく市民に紹介

### NPO法人「先端医療フォーラム」組織図



すること(学術教育委員会)、もうひとつは、医師主導型の臨床試験をこのNPO法

人で行うこと(臨床研究会)です。

本NPO法人の現在までの活動として、平成14年は堂本暁子千葉県知事を招いて、「女性による女性のための医学講座」平成15年は「胃癌になったらどうしよう」、平成16年は「開かれつつある医療—医療の透明性とは」という市民講座を開催してきました。また、学術面では2000年以来、千葉大学先端応用外科が毎年開催してきた「フォーラム新世紀の消化器癌外科治療」や、学会では「創傷治療学会」、あるいは「癌免疫外科研究会と日本癌局所療法研究会のジョイントミーティ

ング」などの研究会の開催を共催してきました。研究会の開催や薬剤の臨床試験を行う時に、法人格のあるNPOが行うことによって運営の経済的な面が明確になります。NPO法人は毎年会計報告を千葉県に報告するように義務付けられていますので、公認会計事務所に監査を依頼しています。

また県や弁護士にさまざまな点を相談して法的に間違いのないように運営しています。将来的な活動として、大学の医局から関連病院への出張人事が派遣業ではないかと国会で問題にされたことがありますので、医局の出張人事をNPO法人を



平成14年11月9日(土) 12:30-16:30  
会場：青葉の森「芸術文化ホール」  
主催：NPO「先端医療フォーラム」/千葉大学大学院医学研究院  
後援：千葉日報社

12:30	マンドリン演奏 千葉県立千葉女子高等学校 マンドリン・ギター部
12:50	オープニングメッセージ 落合 武徳
13:00	ゲスト・セレモニー 堂本 暁子
13:20	パネルディスカッション —ビューティフルライフをさがそう— 司会 濱野 孝子
15:20	休憩
15:30	講演 神津 カンナ 「私のルーツ・家族の風景」
16:30	閉会



ごあいさつ  
「先端医療フォーラム」の理事長落合武徳です。長年、先端医療フォーラムを運営してきました。皆様のおかげで、この研究会が実現しました。研究会の活動を通じて、皆様とつながり、互いに学びあうことが、私たちの目的です。  
NPO「先端医療フォーラム」 理事長  
千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科 教授  
落合 武徳

## NPO 千葉健康づくり研究ネットワークの紹介

理事長 伊藤晴夫

介して行くことも考えています。現在、NPO法人主体の臨床試験として「胃癌に対する抗がん剤の臨床試験」を先端応用外科の関連病院において実施中です。近々「大腸癌における抗がん剤

の臨床研究」を千葉県下の病院に参加して頂いて行くことを企画しています。このように、大学の医局が活動する際に、法人格があるNPO法人を介入させることによって経理面が明確になり、安全で有用です。

NPO「千葉健康づくり研究ネットワーク」は平成16年6月11日の設立以来、数項目の活動を行ってきました。主なものは、(1)性感染症の予防、(2)薬剤治療の質の向上・迅速化、です。(2)の方で、収益が上がれば、基礎医学などに対する助成を行ってゆきたいと考えています。

ンシティーに於いて第一回の研究会を開催しました。教育者、医師、看護師、保健師など100名以上の参加を得て、意義ある会となりました。また、11月28日(日)に、千葉市文化センター9階の会場で開催された「性・エイズについて考え・伝え合う」講座を共催しました。「性教育を考える高校教諭と医師の会」は、高校教諭に産婦人科および泌尿器科

(1)に関しては、現在はエイズを含む性感染症が若年者を中心に急増しているという憂慮すべき状況です。千葉県はエイズ症例数が全国的にみても上位にあり、性感染症一般に対する県民の感心が高くないことが推測されます。そこで、千葉県性感染症研究会を発足させ、6月19日(土)に、セ

「性教育を考える高校教諭と医師の会」は、高校教諭に産婦人科および泌尿器科



「千葉県性感染症研究会」の設立総会

の医師も参加し、より良い性教育を考案・実施するために発足しました。定期的な会合を持ち、市民公開講座の開催あるいは高校への出張講義・相談も考慮中です。この他、千葉県の産婦人科医会、皮膚科医会、泌尿器科医会共同して、千葉県における性感染症の実態調査を始めます。以上のような活動を通じて千葉県、更には本邦における性感染症の制圧のため努力したいと考えます。(2)に関しては、当NPOは治験審査委員会も組織しており、治験の管理機能も有しておりますが、既に治

支援会社に対して、尿路疾患、アレルギー疾患、代謝性疾患などに関する医薬品の臨床試験参加施設の紹介をおこなっております。

疾患ごとの患者さんのリクルートのために、主に開業医とのネットワークを構築中です。

以上の2つ以外に、(3)市民に対する広報活動も行っております。2件の市民公開講座および2件の学術集会を共催しました。(4)医療に関連する機器の開発および特許取得支援に関して、

一般企業による医療機器の開発・特許取得を支援しております。今年は医療用具の開発指導をおこない、滑り止め素材の特許出願にこぎつけました。(5)健康食品の一つである梅エキス製品の抗癌作用を検討中です。ご意見をお寄せ下さい。

また前記(1)と(2)の活動へ参加いただければ幸いです。なお、本NPOのHPは

http://www.npo-hdp.jp/index.html  
TEL 043(226)2040  
FAX 043(226)2040  
です。

### 次世代環境健康学プロジェクトの紹介

医学研究院環境生命医学  
教 授 森 千里  
特任助教 深田秀樹

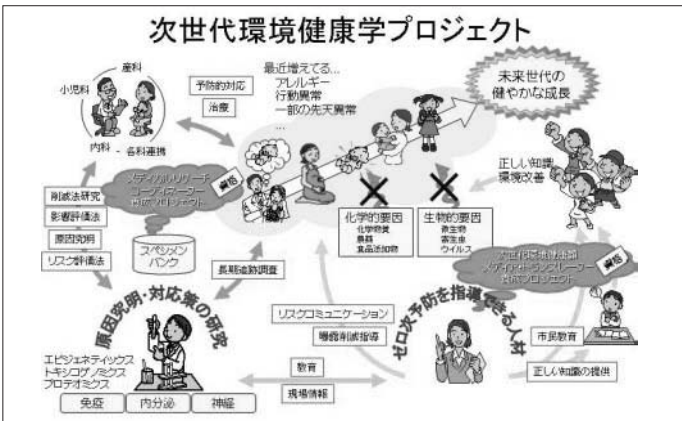
我々がこれまで臍帯を用いて行ってきた研究から、現在、日本人胎児は多数の化学物質に曝露されていることが判明しています。胎児や乳幼児は大人に比べて様々な環境汚染物質に対して感受性が高いと考えられ、これらの化学物質はアレルギー・アトピー、ある種の先天異常などの原因の一つではないかと危惧されています。次世代環境健康学プロジェクトは、21世紀を担

う次世代の健やかな発育・発達とQOL(生活の質)向上を目的に、環境化学物質の胎児・子供への影響に的を絞って、(1)環境化学物質の人体影響に関する調査研究(化学物質複合曝露の現状把握、コホート・分子疫学、化学物質の測定法の開発、ホルムアルデヒドの影響調査)、(2)環境化学物質の人体影響に関するメカニズム・診断・リスク評価法の研究、(3)予防・削減・治療法

の開発研究(予防医学的取り組み、削減法の開発、臨床医学的取り組み)、(4)環境改善型予防医学の実践(専門育成、啓発活動)の4点に重点を置き、環境改善型予防医学をキーワードに未来世代の健康に取り組もうという総合的なプロジェクトです。2005年1月からは本プロジェクト専任の特任助教が付きまします。現在、医学研究院・環境生命医学(旧第一解剖)、細胞治療学(旧第二内科)、小児病態学(旧小児科学)、耳鼻咽喉科学、遺伝子機能病態学(旧泌尿器科学)、基質代謝治療学(旧皮膚科学)、(公衆衛生学、循環病態医学、生虫学)、医学部附属病院周産期母性科と共同して、この

目的を達成すべく研究や調査を進めています。環境化学物質問題を根本的に解決するためにには社会全体で取り組みが必要があります。それにはリスクコミュニケーション手法を活用して意識を高めなくてはならないのですが、このような社会的取り組みを実際に進めていますと、大学という立場では実施しにくい部分があることがわかりました。そこで、2004年7月にNPO法人「次世代環境健康学センター(森千里理事長)を設立し、実践部分はこのセンターで行う体制を作りました。まだまだ活動は始まったところですが、未来世代の健やかな発育・発達とQOLの向上を実現するため、皆様の

免疫発生学、感染生体防御学(旧寄生虫学)、医学部附属病院周産期母性科と共同して、この目的を達成すべく研究や調査を進めています。環境化学物質問題を根本的に解決



暖かいご支援をお願いいたします。(NPOに関するお問い合わせは <http://jisedampo.infoseek.ne.jp> または 043(226)2534)

### Clinical Proteomics in Chiba の紹介

分子病態解析学 教授 野村文夫

Clinical Proteomics in Chiba 2004 (第一回千葉疾患プロテオーム研究会)を平成16年11月21日(日)に千葉大学医学部附属病院第3講堂において開催しました。以下に本研究会の設立の経緯と当日の模様を紹介させていただきます。

産されている蛋白質の全セットを表す造語で、文献上は1995年に初めて登場しました。ポストゲノム時代に入り、各種プロテオーム解析技術の急速な進歩と相俟って、近年、プロテオミクスが注目されています。

ムに興味をお持ちの学内の方々から、是非オープンにしては、とのご助言を頂き、関係の方々にお声をかけて、今回の開催に至りました。また、本研究会は千葉大学21世紀COE「消化器扁平上皮癌の最先端多戦略治療拠点」関連の大学院医学薬学府特別講義として大学院生にも公開されました。

当日は招待講演としてプロテオミクスの分野でわが国をリードされる研究者の一人である横浜市立大学木原生物学研究所の平野久教授(写真)より「翻訳後修飾と相互作用のプロテオミクス」と題するご講演を拝聴しました。発現プロテオミクスの方法論から蛋白質相互作用に関する最新のデータ、さらには創薬プロテオームファクトリー構想にも触れられ、一同大いに感銘を受けました。「クリニカルプロテオミクスの現状と最新の成果」と題したシンポジウムでは私共の教室と北里大学の共同研究者さらには学内でプロテオーム解析を実施されているグループから表(プログラム)のごとく、最新のデータが発表されました。活発な質疑応答がありました。活発な質疑の制約もありましたが、時間の制約もありませんでしたが、懇親会でさらに議論を深め

千葉大学の亥鼻キャンパスにも、多くの先生方のご尽力により、プロテオーム解析のための最新機器が設置され、研究体制が整いつつあります。私どもの教室(分子病態解析学)は現在、特に疾患プロテオミクスを重点テーマとし、田中耕一氏のノーベル賞受賞理由となったソフトイオン化質量

分析法を原理とする最新機器を軸に、新しい疾患マーカーの探索を本学の先端応用外科、臓器制御外科、腫瘍内科学、遺伝子機能病態学、生殖機能病態学(周産期)、環境影響生化学、精神医学、加齢呼吸器病態制御学(呼吸器内科)、循環病態医学(循環器内科)と共同で進めています。ゲノム解析に比し、方法論が発展途上にあるプロテオーム解析においては、技術面での課題がまだ多く、研究の当初から北里大学理学部生体分子動力学教室前田忠計教授の研究グループと交流させていただいています。またプロテオーム解析に不可欠なバイオインフォマティクスについては東京医科歯科大学生命情報学田中博教授のグループにご協力頂けることになりました。以上の多施設共同研究グループとして一度、データの発表会を内輪の会として企画していたところ、プロテオ

### Clinical Proteomics in Chiba 2004

日時：平成16年11月21日(日) 13:00~17:30  
場所：千葉大学医学部附属病院第三講堂  
＜プログラム＞

13:00~13:10	Clinical Proteomics in Chiba 発足にあたって 千葉大学大学院医学研究院分子病態解析学	野村 文夫
13:10~14:10	<b>招待講演</b> 司会 千葉大学大学院医学研究院環境影響生化学 翻訳後修飾と相互作用のプロテオミクス 横浜市立大学木原生物学研究所/大学院総合理学研究科	鈴木 信夫 平野 久
14:20~17:30	<b>シンポジウム</b> クリニカルプロテオミクスの現況と最新の成果 司会 北里大学理学部生体分子動力学 千葉大学大学院医学研究院分子病態解析学	前田 忠計 野村 文夫
1. 二次元電気泳動法を用いた消化器癌のプロテオーム解析	千葉大学大学院医学研究院 分子病態解析学	朝長 毅
2. 前立腺癌研究のプロテオミクス	北里大学医学部泌尿器科	車 英俊
3. プロテオーム解析によるグリオーマバイオマーカーの探索	千葉大学大学院医学研究院神経統御学	岩立 康男
4. 疾病に関連するタンパク質機能状態の解析を目的とした機能プロテオミクス	北里大学理学部生体分子動力学	小寺 義男
5. SELDI-TOF MSを用いた網羅的プロテオーム解析による習慣飲酒の新しい生化学的マーカーの探索と同定	千葉大学大学院医学研究院分子病態解析学	曾川 一幸
6. 血清抗体スクリーニングによる新規癌抗原の同定と腫瘍マーカーへの応用について	千葉大学大学院医学研究院先端応用外科学	島田 英昭



ることができました。懇親会では「臨床サイドが中心となるプロテオーム研究会は貴重で、将来的にはClinical Proteomics in the Bay Areaとしてさらに発展させてほしい」とのコメントもいただき、教員一同大いに勇気づけられました。

前記の研究の過程で、私達のグループでは現時点で複数の新しい疾患マーカーを見出しています。その成果を実際の診療の場に直接役立てるためにはまだ越えなければならぬハードルがありますが、将来的には他施設から委託された検体のプロテオーム解析を高度先進医療あるいは自由診療の形で展開していくことも視野にいれ、特許出願件数もこの2年間で6件となっ

ています。Clinical Proteomics in Chiba 研究グループには、前記の教室に加え、今後本学の神経内科、頭頸部腫瘍科、小児科からも参加される予定です。疾患プロテオミクス研究においては診断が確実でかつ適切な条件下で保存された臨床検体が多数存在することが大前提であり、今後多くの先生方の

### 千葉大学医学研究院緊急時対応ワーキングシステムの紹介

千葉大学医学研究院環境影響生化学 教授 鈴木信夫

ご指導・ご協力をいただきながら、本研究会の輪を拡げていきたいと願っております。今後ともよろしく御願いたします。最後にになりますが、招待講演の司会を担当いただき

た鈴木信夫教授、最後まで討論にご参加いただいた木村定雄教授、真箇医学センターの川本進教授をはじめ、ご参加いただいた多くの方々、に厚く御礼申し上げます。

いつの時代でも種々の災害に対応すべく、平時より緊急時の対応体制を整備しておく必要があります。4年前より、医学研究院内の複数の教室が協力し合い準備してきております。核・化学・生物による各種のテロ災害や地震等の自然災害をも視野に入れての諸活動です。皆さん、手弁当での参画です。以下、諸活動の一端をご紹介します。

図1は、千葉県内ネットワークを千葉県医師会なども加え構築中の活動をまとめました。

図1 災害時千葉県内ネットワーク

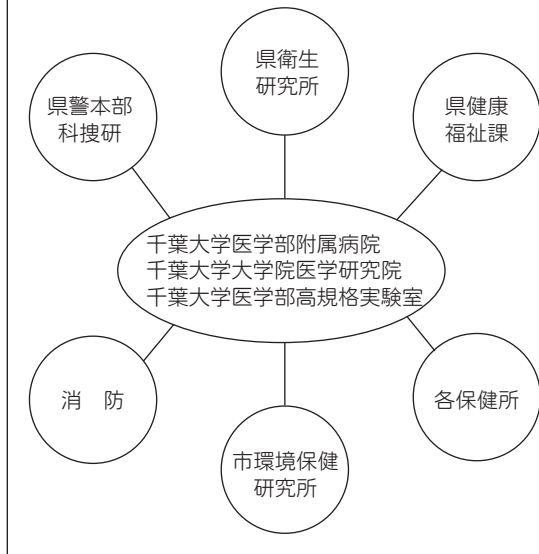


図2

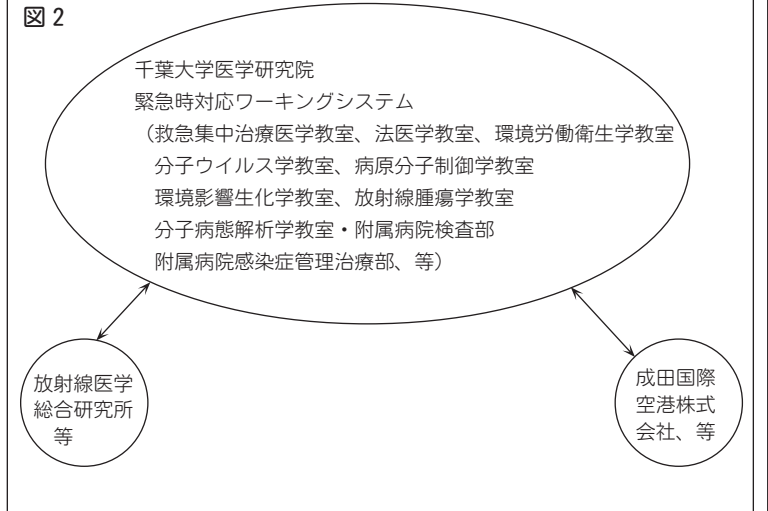


図1は、千葉県内ネットワークを千葉県医師会なども加え構築中の活動をまとめました。一方、図2に示すように、成田空港を中心としたネットワークを開始しております。今後なすべきことは、General management (統合管理) の導入と緊急時に真に役立つための情報通信機器の整備や一般社会人や官庁職員などのコーディネーターの養成、等々です。

次号では、会員の診療所や病院を核としての社会活動に関する発信を掲載する予定です。奮ってご投稿下さい。原則的に、半面分の原稿(写真や図を含む)をお寄せ下さい。

医学研究院病原分子制御学教室・環境影響生化学教室  
健康危機管理次世代市民ネットワークの紹介

— アウトリーチ活動  
の実践報告 —

病原分子制御学教室と環境影響生化学教室とは、次世代を担う全国の小学生、中学生、高校生、あるいは大学生や市民を対象として、健康危機管理の為の教育講演を実施しております。大

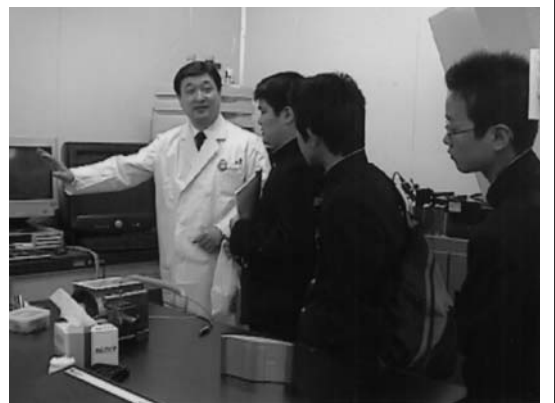
学生や博士をめざす大学院生、さらには専門領域の科学者が扱うような健康危機管理に関する最新のテーマを話題に取り上げています。が、多くの子供や若者、そしてそれらの保護者に興味を持っていただけるような構成にしており、だれでも



10月28日 広島県立海田高校で理科系2年生(60名)を対象に実施。

簡単に理解する事が出来るようにしています。私共の教育講演を最後まで聞くと、日常生活で役立つ多くの健康危機管理の「正しい知識を簡単に身につける」事が出来ます。また、「自然界の不思議さ・魅力」、さらには「他者との協調の重要性」にも気付いてくれると確信しています。他人を理解し心豊かで健康な日常生活をおくれるように、また将来、多くの専門分野で優秀な世界的リーダーが多数登場するように、

私たち は心から若い皆さんを支援していきたいと思っています。私共の教育講演活動が次世代を担う



4月15日 千葉大学医学部内で修学旅行で東京中の中学生(5名)を対象に模擬講義実施。

若い皆さんにとって、健康危機管理の意識を高める為に少しでもお役に立つよう、今後様々な工夫をしてまいります。同窓会員の皆様方の御支援をお願いする次第です。

その1

マイクロの世界からのメッセージ

教授 野田公俊

私たちの住む地球上には、人間の肉眼では見る事出来ない微細な「マイクロの世界」というものが存在しています。そこには微生物という小さな生き物が住んでいます。微生物には細菌・ウイルス・酵母・カビなどを含めて実に多くの種類が

ちの住む世界に様々なメッセージを送って来ています。私たち人間は、そのメッセージを上手に利用して、彼等との共同作業で豊かな日常生活を築き上げて来ました。たとえば、チーズやヨーグルト、ビール・ワイン・日本酒などのお酒類、味噌・醤油などの調味料、納豆やパン、さらには抗生物質という薬なども微生物の協力でやっと出来るものなのです。私たちの祖先は、太古から微生物との付き合いが大変上手だったようです。そして今日の豊かな食文化を形成することが出来ました。しかし、このマイクロの世界からのメッセージに正しく対応しないと、私たちは想像を絶する脅威を受ける事が有ります。つまり、

人間をはじめ動物や植物などの生命が脅かされ、ついには奪われてしまう事も多く有ります。皆さんも知っているO-157という殺人細菌が引き起こした食中毒事件もその代表例です。1996年に我が国の至る所で、O-157の集団食中毒事件が勃発し、実に一万人もの被害者が出ました。命を失った人も12名出てしまいました。多くは体力の弱い小さな子どもと高齢者の方でした。いったいマイクロの世界で何が起きているのでしょうか？これを理解する為には、日本だけではなく、地球規模でマイクロの世界を調査してみなければなりません。その結果、大変ショッキングな事がわかりました。全世界で一年間の内に微生物が引き起こす「感染症」という病気で命を失った人の数が、約二千万人に達するというのです。これは、大都市東京に住む人口のほぼ2倍に相当します。つまり、一年間にこの地球上から東京規模の大都市が感染症によって、確実に2つは消え去るといって大変悲惨な事実を示していたからです。高度な最新の医療が有る現代社会が築かれたにもかかわらず、なぜこのような悲惨な事件が私たちの住む地球上で起きているのでしょうか？実はその理由は、大きく3つに分類される事がわかって来ました。当講演ではこれらをわかりやすく解説します。また、それらはなぜ起きて来たのか？それらへの正しい対処はどのようにすれば良いのかなども解説します。

出張講演実施校のリスト

- 1 2004年6月3日～6月4日  
◎講演場所：青森県八戸市、青森県三戸郡南郷村 (合計10校で実施+教員のみ参加1校)
- 2 八戸市立長者中学校 (1～3年生：434名)
- 3 八戸市立江南小学校 (4年生：36名+保護者：25名)
- 4 八戸市立轟木小学校 (4～6年生：55名+保護者：8名)
- 5 八戸市立市川中学校 (1～3年生：400名)
- 6 八戸市立多賀台小学校 (5～6年生：50名)
- 7 八戸市立桔梗野小学校 (教員：1名)
- 8 八戸市医師会立八戸准看護学院(50名)
- 9 八戸市立高等看護学院(100名)
- 10 青森県三戸郡南郷村立高守中学校(1～3年生：80名)
- 11 青森県三戸郡南郷村立田代中学校(1～3年生：110名)
- 12 2004年6月10日  
◎講演場所：千葉県野田市 (合計1校で実施)
- 13 野田市立福田第一小学校(1～6年生：240名)
- 14 2004年6月17日  
◎講演場所：千葉県四街道市、千葉県千葉市 (合計2校で実施)
- 15 四街道市立南小学校 (5～6年生：60名)
- 16 千葉市立緑町小学校 (5～6年生：170名)
- 17 2004年7月1日  
◎講演場所：千葉県市川市 (合計1校で実施)
- 18 市川市立第八中学校 (1～3年生：550名)
- 19 2004年9月9日  
◎講演場所：千葉県夷隅郡大多喜町 (合計1校で実施)
- 20 千葉県大多喜町立大多喜小学校 (1～3年生：720名)
- 21 2004年10月4日～10月5日  
◎講演場所：青森県黒石市、青森県弘前市 (合計3校で実施)
- 22 黒石市立黒石小学校 (6年生：59名)
- 23 弘前市立時敏小学校 (6年生：59名)



10月27日 広島市立幟町中学校で3年生(140名)を対象に実施。講演後、光原達夫校長先生及び生徒と。

(4年生：90名)  
 19、弘前市立弘前第一中学校(1年生：300名)  
 2004年10月22日  
 ◎講演場所：千葉県千葉市(合計1校で実施)  
 20、千葉県立千葉高校(1～3年生：80名)  
 文部科学省認定 スーパーサイエンスハイスクール  
 8、2004年10月26日～10月29日  
 ◎講演場所：広島県広島市、広島県大竹市、広島県安芸郡海田町、岡山県岡山市(合計6校で実施)  
 21、広島県立祇園北高校(理科1～2年生：80名)  
 22、広島県立広島国泰寺高校(理科1年生：80名)  
 文部科学省認定 スーパーサイエンスハイスクール

23、広島市立幟町中学校(3年生：140名)  
 24、大竹市立玖波中学校(2年生：100名)  
 25、広島県立海田高校(理科2年生：60名)  
 26、岡山県立岡山一宮高校(理科2年生：80名)  
 文部科学省認定 スーパーサイエンスハイスクール  
 9、2004年12月16日  
 ◎講演場所：千葉県四街道市、千葉県習志野市(合計2校で実施)  
 27、千葉県四街道市立和良比小学校(6年生：131名+保護者13名)  
 28、東邦大学付属東邦中学校(2年生：306名)

その2

水と緑の生命科学講座

医学研究院環境影響生化学

講師 喜多和子

平成16年度実施しているテーマは、「水と緑」です。水や緑が人のストレス状態にどのように関わっているかという問いに、新しい測定システムによる計測結果を示して解説しています。

ストレス状態を個体と細胞の両レベルから同時に観測できる世界に類の無いシステムを使用しています。例えば、水については、水に含まれる個々の成分を論じるのではなく、飲用する水総体の体への生物作用を観測するものです。

河川から採取した水とその河川の浄水の飲用水による細胞や遺伝子への悪影響を調査しています。と同時に、採取地域周辺の住民の方々から希望者を募り、その方々の血液の血清を採取し、酸化傷害度や体を構成している細胞の遺伝子の傷とその修復の具合を調査してあげています。

川、飲用水、そして生活習慣を一体としてそれらの関わり具合を、水と血清を軸に解明しています。一方、アクアポリンの発見など、水に関わる生命科学の進歩は目覚ましいので、

それらの一端や健康長寿の水をもちいての秘策を紹介しています。いふなれば、水の生命科学について、実践と教育講演を併設しての活動です。その上で、水の生命科学館の建設を提唱しております。

出張講演リスト

2004年7月21日

「水の生命科学研究から考える環境・健康問題」(千葉県船橋市きららほーる)

2004年9月11日

「水そして生命・健康を考える」(山梨県長坂町三分一湧水館)

2004年11月14日

「水と健康について」(千葉県千葉市検見川小学校)

2004年11月23日

「水のいのち、森のいのち、わたしたちのからだ」(東京都あきるの市山溪)



—— 医学研究院環境影響生化学教室・八王子市共催 ——  
環境学習室オープンフェスタのご案内

- 1. 日 時 平成17年1月30日(日) 午前11時から午後5時まで
- 2. 場 所 八王子市北野町596-3 八王子市北野余熱利用センター「あったかホール」 TEL 0426-56-4120

- 3. 概 要
  - 1) オープニングセレモニー  
八王子市長・八王子市環境学習室開設準備会代表  
八王子青年会議所理事長・八王子学生委員会委員長  
八王子市環境推進会議議長・八王子市立小学校科学教育センター
  - 2) 記念講演会  
第1部 特別講演「水と緑の生命科学を探究し、環境と人とのかかわりを考える」  
千葉大学教授 鈴木信夫  
千葉大学講師 喜多和子  
第2部 「小川のせせらぎ」で創り出す音楽と映像による『癒しの世界』  
第3部 意見交換会
  - 3) おもしろエコ広場  
環境市民会議環境学習室の紹介・大学活動紹介コーナー  
事業者商品紹介コーナー





# あのはな同窓会学外研究助成受賞者の言葉

千葉県千葉リハビリテーションセンター  
大賀 優 (昭62)



同窓会学外研究助成という援助の賜物であり、共同研究者として再度深く御礼申し上げます。

この度は幸運にも第6回はあのはな同窓会学外研究助成を授与されることとなりました。機会を与えて下さりました審査員の諸先生方にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。

平成11年度からはじまったこのあのはな同窓会学外研究助成には、第1回「てんかん原性獲得機構におけるアポトーシス・神経新生・軸索ガイダンスの関与」(代表研究者：三枝敬史)、第2回「頭部外傷後海馬神経損傷における microglia の役割」(代表研究者：枝美枝子)の共同研究者として参加させていただきました。三枝氏はこのテーマにより学位取得を果たし、枝女史はその成果を「The 6th International Symposium (Tampa, Florida, 2002)」に発表することができました。これも一重にあのはな

今回提出した「脳虚血損傷に対する遺伝子/細胞療法を併用した enriched rehabilitative training」は、この数年準備してきたテーマです。すなわち、脳梗塞が生じた部位に、低酸素反応因子 promoter/上皮増殖因子 (EGF) 遺伝子を導入した血管内皮前駆細胞を血管を通じて送り込み、自らは血管内皮細胞へと分化して血管新生に寄与すると同時に EGF を多量に産生させ、さらにリハビリテーションという外的因子を付加することにより産生された FGF- $\beta$  と共同して梗塞部位における内因性神経幹細胞の遊走増殖分化を促進できるのではないかと、またそれらを通じて機能予後を改善できるのではないかと、というのが仮説の骨子です。実験という場におろかさやかな勝利しか経験したことのない私にとって、相当に準備をしてきた

とはいえ、今回のテーマで良い結果が出るかどうか非常に不安な面があり、申請の封筒を握り締めて郵便ポストの前をいきつもどりをしたことが思い出されました。授与の通知をいただいた時は、行間から、「面白い考えじゃありませんか。頑張ってください」という激

君津中央病院消化器内科



佐藤 恒信 (昭63)

この度は、第6回はあのはな同窓会学外研究助成金を戴きまして、誠にありがとうございます。

私は1988年(昭和63年)千葉大学医学部を卒業し、大藤正雄前教授の第一内科(現腫瘍内科学講座)に入局させて頂きました。旭中央病院にて臨床研修を終えた後、第二理学教室にて近藤洋一前教授の御指導を仰ぎ、第一内科同門の栗原稔前教授の昭和大学豊洲病院消化器科、長尾啓一教授の千葉大学保健管理センターを経て、第一内科江原正明助教授のもと、肝細胞

励の声が開かされたようで、喜びもひとしおでした。今後ともこのあのはな同窓会学外研究助成が、経済的援助のみならず、病める方々の幸福に熱い夢を寄せると同輩への暖かな精神的支柱の場であり続けることを願って止みません。

癌ならびに肝癌類似病変の臨床病理学的研究をさせて頂きました。2002年(平成14年)より税所宏光現教授のごはからいにより、君津中央病院消化器科に勤務しております。

近年の画像診断の進歩により、肝腫瘍の診断・肝細胞癌の治療の成績は向上しつつあります。しかしこと肝臓においては、治療予後に関連する腫瘍結節周囲進展病変および血管侵襲病変を、X線CT、MRI、血管造影などによって正確に診断することは現在なお困難な状況にあります。本研究は、画像診断法として最も高い分解能と正確な立体位置情報を持つ造影三次元超音波を応用し、手術標本による病理組織所見と比較検討することにより、そ

## 長尾精一氏の遺品について

循環器内科 石出 猛 史 (昭52)

の診断能を明らかにし、これらの問題の解決を図るものです。

君津中央病院は、福山悦男院長の御指導のもと、早坂章消化器科部長のご尽力にて、三次元超音波装置を中心に設備・スタッフにも恵まれ、各科との風通しも良い施設です。松寄理病理科部長、海保隆外科部長、

大部誠道肝臓内科病棟医長との共同研究により、本研究をすすめることとなりました。外来、検査、病棟業務や研修医の指導と研究の両立は激務ですが、ご期待に沿えるよう努力したいと存じますので、宜しくお願ひ申し上げます。

(神崎哲人先生の言葉は新年の挨拶と共に8面に掲載)

長尾龍郎氏(昭40)千葉県千葉リハビリテーションセンター)から、あのはな同窓会に、長尾精一氏と美知(よしとも)氏にゆかりの品々の御寄贈があった。精一氏は公立千葉病院時代から、県立千葉病院・第一高等中学校医学部・第一高等学校医学部・千葉医学専門学校を通じて、校長・病院長などを歴任し、今日の千葉大学医学部の基礎を築いた人物である。

美知氏は精一氏の女婿であり、千葉医学専門学校教授・病院副院長を勤めた。それぞれ龍郎氏の曾祖父・祖父にあたる。今回寄贈された資料のうちから、長尾精一氏に関連した次の三点

を紹介する。

- 『醫學卒業候事』(図1)
- 『卒業証書』(図2)
- 『醫術開業免状』(図3)

『醫學卒業候事』『卒業証書』は、長尾精一氏が東京大学医学部を卒業した際、『卒業証書』に添付された成績証明である。この東京大学医学部は、後に明治19年(1886)帝国大学医科大学に改組される。

長尾龍郎氏からいただいた、長尾喜又著『回



図 1

想譜 長尾家の医師たち』によると、精一氏は、明治5年(1872)東京大学医学部の前身校第一大学区医学学校に入学。明治13年(1880)に卒業した。この当時の課程は8年間である。

東京大学医学部の一期生は、明治12年(1879)10月に卒業している。精一氏は二期生になる。二期生は16名である。この書類には、各教科の成績と、当時の外国人教師5人の名が記載されている。5人の教師のうち、シュルツ、ベルツ、ラングルトの肩書は「ドクトル」のみであるが、チーゲとギールケには他に「プロフェッソル」の肩書がつけられている。

現存する旧東京大学医学部当時の卒業証書は、余り多くないと思われる。近代

の医学教育史を辿るうえで  
貴重な史料といえよう。

『醫術開業免許』

旧幕時代末期の佐倉藩で  
は、既に医師に試験を課し、  
合格者にのみ鑑札を下付す  
ることを試していた。明治に  
入ると、新政府は段階的に  
「医師法」の制定に動いた。  
以下年代順にその成立過程  
を辿ると、

明治7年(1874) 6月28日

医務衛生業務が、文部  
省から内務省に移管さ  
れる。

8月18日東京・大阪・  
京都の三府に、医師開  
業試験の布達が出され  
る。

同8年(1875) 2月10日試  
験が実施される。

同12年(1879) 2月24日

「医師開業試験規則」  
が布達され、三府のみ

ならず、全国的に施行  
されることになった。

同16年(1883) 10月23日太  
政官布告により、「医  
師開業試験規則」「医  
師免許規則」が制定さ  
れ、医師の資格制度が  
法制化された。

同39年(1907) 5月2日  
「医師法」成立。

大正5年(1916)「医師開  
業試験」廃止。

ここに、現行の医師法制  
度が完成したわけであるが、  
この成立過程は、同時に漢  
洋医学対決の歴史であると  
共に、本邦の医療制度にお  
ける漢方医学の退場を意味  
した。この「免許」は文面  
にあるように、明治16年10  
月23日の太政官布告(第35  
号)に基づいて、内務卿山  
縣有朋と内務省衛生局長  
與專齊の名で、明治17年5

月1日に発行されている、  
精一氏の医籍登録番号は1728  
号である。この頃から、現  
行の医籍登録制度が始まっ  
たようである。

あとがき  
前述の『回想譜』による  
と、喜又氏の祖父長尾折三  
氏は、精一氏の甥であり、  
明治23年(1890) 4月第一高  
等中学校医学部を卒業して  
いる。折三氏は文筆家とし  
て知られていたようで、そ  
の著書には、医界の頹廢・  
弊害を論じた『噫医弊』  
『当世医者氣質』などがあ  
るが、この二冊は、喜又氏  
による復刻本が、附属図書  
館亥鼻分館に収蔵されてい  
る。

現在医学部の構内に、レ  
リーフを嵌め込んだ一基の  
台座が立っている。かつて  
台座は二基あり、その上に

はそれぞ  
れ長尾精  
一氏と荻  
生録造氏  
の胸像が  
鎮座して  
いた。そ  
の長尾精  
一氏の胸  
像の原型  
である石  
膏像を、  
龍郎氏が  
所蔵され



図 2



図 3

はそれぞ  
れ長尾精  
一氏と荻  
生録造氏  
の胸像が  
鎮座して  
いた。そ  
の長尾精  
一氏の胸  
像の原型  
である石  
膏像を、  
龍郎氏が  
所蔵され

ているということである。  
高村光雲の作ということ  
なので、美術品としての価  
値も高いものであろう。

参考文献

『医制百年史』厚生省医務  
局編 1976 ぎょうせい 東京

『図説日本の「医」の歴史  
上通史編』小池猪一著 1993  
大空社 東京

『回想譜 長尾家の医師た  
ち』長尾喜又著 1998 菜摘  
舎 東京

亥鼻分館だより  
亥鼻分館所蔵・医事文化資料の展示会開催  
(平成16年11月20日〜12月5日)

亥鼻分館には東洋医学を  
中心とした古医書コレクション  
があるのをご存知でしょ  
うか。このコレクションの  
一部は附属図書館HP上で  
見ることが出来ます。トッ  
ページの「図書館発信情  
報」をクリックし、「デー  
ベースの見出しから『婦人  
臓図』を選択します。

今回、本コレクションの  
中に『医事文化資料』と称  
する一枚ものの瓦版、版画、  
広告刷物、錦絵など75点が  
加わりました。以前、眼科  
研究室で収集したもので、  
安達恵美子教授(現名誉教  
授)が退官時に亥鼻分館の  
貴重書室に保管してほしい  
と持ってきたものです。  
本『医事文化資料』の整  
理は、樋口誠太郎千葉敬愛  
短期大学講師にお願いして  
完了したので亥鼻分館に

おいて展示会を開催しまし  
た。今回開催できましたの  
も資料の整理に関し、あ  
はな同窓会から「亥鼻分館  
助成」という形でご協力を  
得られたからであり、同窓  
会のみならずこの場をお  
借りして厚くお礼を申し上  
げます。  
本展示会の様子について  
も、附属図書  
館HPの「図  
書館発信情報」  
にある「亥鼻  
分館展示会」  
の下に載せる  
予定です。  
ご覧いただき、  
雰囲気だけで  
も感じていた  
だければ幸い  
です。本資料  
の概要につま  
ましては、樋  
口氏が「千葉



附属図書館では、これら  
の資料を電子化し、インター  
ネット上で見られるように  
したいと考えていますが、  
もう少し時間がかかります。  
(亥鼻分館 五十嵐裕二)

刊行物の紹介



静岡あのはな会

医学」(80巻5号2004)に  
「話題」として紹介記事を  
載せています。  
資料は江戸末期から明治  
初期にかけてのもので、強  
い武将として源為朝を描き  
痘瘡神を寄せ付けないとし  
た「痘瘡絵」や麻疹に罹っ  
た時の養生の仕方を述べ、  
食べ物の良し悪しまで記し  
ている「はしか絵(麻疹絵)」  
などがあります。また、歌  
舞伎役者を登用し、その人  
気で売り込もうとする薬の  
広告も含まれています。

その他、興味深いところ  
では、「通俗三國志之内華  
陀骨刮鬚羽箭療治図」があ  
ります。三國志については、  
文学などでご存知の方も多  
いと思いますが、名医華陀  
が毒矢の刺さった鬚羽の腕  
の肉を切り開き、骨につい  
た毒を削り取り薬を塗る手  
術を行っているところです。  
その間、鬚羽は痛がるどこ  
ろか酒を飲み、馬良に碁の  
相手をさせていたという美  
しい色彩の三枚一組の錦絵  
です。

### 亥鼻祭を終えて

2004年度 千葉大学亥鼻祭実行委員会  
実行委員長 医学部4年 小西 孝宜

今年度、亥鼻祭実行委員会委員長を務めました医学部4年の小西孝宜と申します。今回は、あのはな同窓会報の紙面をお借りしまして、昨年の11月2、3日に開催されました亥鼻祭についてご報告いたします。

当日は晴天に恵まれ、2日間で合計4,860人もの方々にご来場していただきました。OB、OGの先生方や地域の方々などたくさんの方々にいらしていただき、亥鼻キャンパスはいつにない盛り上がりとなりました。メイン企画の一つでもあ



委員一同 特設ゲート前にて

る医療系シンポジウム「小児のOS」ことも救うのはあなたです」では、寺井勝先生・武石恭一先生・山口博弥記者をお招きして、それぞれ「小児医療の現状と急変時の対応」・「こどものころのケア」・「新聞記者から見た小児医療」というタイトルで講演していただきました。たくさんの方々の学生に関心を持っていただき、有意義なシンポジウムとなりました。また、本年度の亥鼻祭は来場者自らに体験していただく企画が多かったのが特

徴でもありました。初めての試みでもあった「ふくしまつり」では、高齢者体験や妊婦体験を実施し、「亥鼻あるある大事典!」では、健康診断や骨密度・脳年齢の計測などを行いました。どちらも大好評であり、行列ができていたのがとても印象的でした。

その他にも、千葉大学の先生方に講演していただいた「公開講座」、子供を対象とした「きっずらんど」、地域の方や受験生に亥鼻キャンパスを紹介する「大学紹介・受験相談」等、学生が思考を凝らして創りあげた数々の企画が展開されていきました。特に2日の夕方に行われた深夜祭では、日が暮れつつある雰囲気の良い中、ステージ上で学生が歌や演



Inohana 2004-2005

奏やダンス等を披露し、見ている人すべてを感動させました。まさにテーマの「COLORS」の如く、学生が自らの個性を發揮した瞬間でもありました。しかし、亥鼻祭は学生だけの力だけで行えたものではありません。このような素晴らしい亥鼻祭を開催することができたのも、あのはな同窓会の方々のご理解と温かいご声援があったからであります。多くの学生が亥鼻祭を通じて、かけがいのない経験をすることができました。このような機会を我々学生に与えてくださったことにとても感謝しております。ありがとうございました。これからも努力を絶やすことなく、亥鼻祭というすばらしい伝統を引き継いでいこうと考えております。今後とも亥鼻祭にご理解とご協力をいただけたら幸いです。

### 開業医の卒後研修

村瀬 靖(昭30)

母校医学部を卒業、一年間のインターンを終えて直ぐ母校の産婦人科教室に入局した。13年間在籍したが、岩津俊衛、御園生雄三両教授の薫陶で最新の産婦人科学を学び、意気揚々と江戸川区で開業した。当初は最新の実力があると思っ

ていたが、数年多忙な毎日を通じて、大病院の診療レベルより劣って来たなど自覚した。分娩時の弛緩出血や妊娠中毒症のDIC等で開業医仲間が医療事故を起こし、裁判で苦勞している姿をみて、江戸川区の産婦人科医師のレベルアップの必要を痛感した。幸い江戸川区はJR総武線の沿線に在り、あのはな会

員も各科で指導的立場の方も多かったため、色々相談し日本でも有数の卒後研修会を開催しようと決意した。研修仲間の範囲は江東6区と市川、松戸、船橋、浦安を包含、江戸川を挟んだ、他府県に跨がる珍しい大きな研修会が誕生した。毎月2回近隣の大学の指導者を招聘し、「Emergency」への対応、「安全な分娩」、「正しい点滴法」、「子宮癌検診と治療」等開業医のZestsの高いテーマで講演会を開催している。20年来江戸川医学会が連綿と開催されているが、期を同じうして産婦人科卒後研修学会を開き、会員以外の近隣基幹病院の先生方にも発表して戴き、400字15枚の学位取得時の副論文にもなるSociety印刷の論文集も発行し、ISSN登録も私の提唱で行っている。開業医には

出席者 大井利夫、大藤正雄、大浜博利、沖真澄、小幡裕、加部恒雄、木内政寛、税所宏光、三枝一雄、佐藤通、佐藤甫夫、鈴木信夫、滝口正樹、田中光、富田裕、吉川廣和、渡辺武、済陽高穂

停年もなく、生涯卒後研修が大事で、医療事故防止にすることを皆心に銘記し始めている。講演会や学会の後には、産婦人科医会からの饗応で、楽しい語らいと交流の場が持続されている。また江戸川区の産婦人科卒後研修仲間、助けあう緊急医療体制も作り効果を上げている。年を取っても医学洋書を読み、学会発表をすることは、Ageing予防に最適と思ひ、毎年村瀬珍学説を発表しているが、あのはな会員のBack Upを是非お願いしたい。

開会に先立ち、渡辺武会長よりご挨拶があった。小幡裕副会長の発議により、渡辺会長が議長に選出された。

### 議案

一、学外研究助成選考結果について  
鈴木信夫理事より、関谷宗英選考委員長から報告された選考経過の説明があり、3件の助成案が承認された。報告書の提出を求め、その必要性について検討することとした。  
二、あのはな同窓会賞選考委員補充について  
委員長補充について  
理事より、関谷宗英委員の後任に落合武徳委員を充てる旨説明があり、承認された。  
三、全国支部長会議(仮称)開催について  
渡辺会長より、首都圏の

平成16年度  
第2回常任理事会  
議事要旨

日時 平成16年11月24日  
(水) 午後3時30分  
分5時30分  
場所 千葉スカイウイン



医学部記念講堂風景：屋根と正面の円盤はそれぞれ、お寺の屋根と鯉口を模したということです。次号よりこの講堂にまつわるお話を掲載する予定です。

のはな会を発展させた全国支部長会議を平成17年2月12日に東京で開催する旨提案があり、承認された。

**報告事項**

一、叙勲者・表彰者・昇任者の四金会招待について  
滝口正樹理事より、招待者の報告があった。

二、同窓会関係  
鈴木理事より、1月刊行予定の同窓会報の編集経過について、特に各支部よりの投稿に期待する旨報告があった。

三、メディカルオンラインについて  
滝口理事より、電子ジャーナル供給サービス・メディカルオンラインの来年度導入に向けた無料トライアルの経過について、報告があった。

同窓会報  
学生編集部、  
亥鼻祭実行  
委員会、自  
治会等の学  
生諸君から  
最近の活動  
について報  
告と謝辞が  
あった。濟  
陽高穂理事  
のご発声で  
中締めとなっ  
た。

四、総務会報告  
小幡副会長より、第14回総務会について、議事録に基づき報告があった。

五、予算執行状況(中間報告)について  
税所宏光理事より、平成16年度予算執行状況、決算予測について報告があった。

四金会  
引き続き同所で四金会が行われた。滝口理事の司会で、渡辺会長のご挨拶、井出源四郎名誉会長の乾杯ご発声に始まり、和やかに歓談の時を過ごした。叙勲、表彰のお祝いでご招待の志村昭光先生、庵原昭一先生、川口幸夫先生、館野之男先生、村山智先生、仙波恒雄先生、助教授・昇任の寺田修久先生、山本達郎先生からご挨拶を頂いた。

## 第81回千葉医学会学術大会開催のご案内

日時：平成17年4月20日(水) 16:10~18:30 (予定)

場所：千葉大学医学部附属病院 3階 第1講堂

学術大会 会長 福田 康一郎

### 特別講演

#### かびと共に40年---皮膚科医から基礎研究者へ

演者：宮 治 誠 (千葉大学 名誉教授)

司会：西 村 和 子 (千葉大学 真菌医学研究センター センター長)



宮治 誠 名誉教授

### 招待講演

#### 肺真菌症の原因菌とその病原性について

演者：亀 井 克 彦 (千葉大学 真菌医学研究センター 教授)

司会：栗 山 喬 之 (千葉大学 大学院医学研究院 教授)



亀井克彦 教授

●本講演は日医生涯教育講座に申請予定です

●参加費：無料 多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます

問い合わせ：千葉医学会

TEL: 043-202-3755 FAX: 043-202-3757

info@c-med.org http://www.c-med.org/



「一面の空きスペースにどの花柄模様を挿入しましょうか?」「この標題の活字体もう少し目立つものにしませんか?」「オイオイ! 二面の記事配置が新聞形態になっていないぞ!」:東京にある印刷工場での本会報作製現場での一コマです。2~3人がようやく入り込める町工場の屋根裏部屋でのゲラ刷りの校正風景であり、学生編集委員達の孤軍奮闘の様子です。

あれから約40年、何とか本会報の発行は続いてきました。ただし、編集と校正の方法は一変しました。コンピュータの導入により、スピード化がなされました。しかし、それ以上に、大変革できたことは、頁数の増大化に対応可能となったことでしょうか。その頁数増大の理由ですが、地方支部の設立と充実が大きな要因でしょう。なお、40年前、会

報の編集も兼ね、諸先生方と各地の同窓の先生を訪問し、その訪問内容を記事化することが一役かったかも知れません。

ところで、全国支部の充実化は、あのはな同窓会の今後のあり方へも恐らく波及するでしょう。このことに対応できる本会報のあり方も大いに探索する必要がありましょう。会報の意義を認識し汗水を流す人々のみのボランティア作業ではなく、各支部の代表者が選出され、その方々が東京あたりに集合する編集会議を開催し、各自が責任をもって分担面を編集・校正する日が近いことを願うばかりです。インターネット上での交流とは違う、一味違う会員相互の交流の場の構築です。

平成16年度編集長  
鈴木信夫(昭47)

### \*支部分担紙面の募集

前号の青木謹先生の編集後記でお知らせしましたように、あのはな同窓会支部で情報通信員(仮称)を選出していただき、その方を中心に本会報の紙面(一〜二面分)をその支部に編集していただくことを企画いたします。編集希望の支部は、本部事務局までお申し出下さい。